令和７年度日高山脈襟裳十勝国立公園協議会

第１回幹事会

日時：令和７年６月 23 日（月）13:15～14:45
場所：中札内村 農村環境改善センター 大集会室

次　第

１．開　会

２．議　事

（１）審議事項
１）日高山脈襟裳十勝国立公園ビジョン（案）について
２）日高山脈襟裳十勝国立公園協議会の今後の進め方について

（２）報告事項
１）日高山脈襟裳十勝国立公園協議会規約（別添２）の変更について
２）令和６年度の各構成員の取組報告について
３）令和７年度の各構成員の取組報告・予定について
４）その他各構成員からの報告事項

３．その他

４．閉　会

【配付資料】

構成員・出席者名簿

資料１－１　　日高山脈襟裳十勝国立公園ビジョン（案）_パブコメ後版

資料１－２　　日高山脈襟裳十勝国立公園ビジョン（案）_パブコメ結果と対応

資料２　　日高山脈襟裳十勝国立公園協議会の当面の進め方について

（令和７年６月 23 日版）

報告資料１　　日高山脈襟裳十勝国立公園協議会規約（別添２）の変更

報告資料２　　令和６年度の各構成員の取組報告について

報告資料３　　令和７年度の各構成員の取組報告・予定について

報告資料４　　各構成員からの情報提供資料

（１）　登山道に通じる国有林林道の通行状況ほか

（日高北部・南部・十勝西部森林管理署）

（２）　十勝西部森林管理署管内の主要山岳及び林道状況

（十勝西部森林管理署）

（３）　日高山脈襟裳十勝国立公園指定１周年記念シンポジウム（日高振興局）

（４）　第 52 回ひだか樹魂まつりチラシ（日高町）

（５）　令和７年度日高山脈襟裳十勝国立公園に係る中札内村の取組（中札内村）

令和７年度日高山脈襟裳十勝国立公園協議会第１回幹事会
出席者名簿

分野	所属名	役職名	構成員名（敬称略）	WEB
学識経験者	北海道大学	名誉教授	中村 太士	○
	北海道大学大学院	教授	愛甲 哲也	
国	日高北部森林管理署	署長	野木 宏祐	
	日高南部森林管理署	総括事務管理官	大水 貴博	
	十勝西部森林管理署	総括事務管理官	水谷 豊	
	北海道開発局	開発監理部 開発連携推進課 開発専門官	在田 尚宏 （代理出席）	○
	北海道運輸局	帯広運輸支局 首席運輸企画専門官	徳田 陽介	
		室蘭運輸支局 首席運輸企画専門官	小林 俊介	○
	北海道地方環境事務所	国立公園課長	尼子 直輝	
北海道	環境生活部	自然環境局 自然環境課 自然公園担当課長	島村 哲也	○
	日高振興局	環境生活課長	栗林 稔	○
	十勝総合振興局	環境生活課長	内田 朋宏	
市町村	帯広市	都市環境部環境室 環境課長	西島 新一	
		経済部観光交流室 観光交流課長	古井 健太郎	○
	日高町	地域経済課長	小野寺 孝	
	平取町	商工観光課長	藤谷 直樹	○
	新冠町	企画課長	佐渡 健能	○
	浦河町	商工観光課長	民部 宏治	○
	様似町	商工観光課長	板谷 潤	
	えりも町	産業振興課長	武田 健太郎	○
	新ひだか町	総務部まちづくり推進課長	森 勝利	○
	清水町	農林課長	寺岡 治彦	
	芽室町	環境土木課 生活環境係長	速水 洋之 （代理出席）	
	中札内村	産業課長	尾野 悟里	

	大樹町	住民課長	牧田　護	
	広尾町	水産商工観光課長	室谷　直宏	
登山関係団体	十勝山岳連盟	会長	齊藤　邦明	
	日高山岳連盟	会長	藤田　博己	○
自然保護団体	アポイ岳ファンクラブ	会長	田中　正人	
	十勝自然保護協会	事務局長	川内　和博	
観光関係団体	十勝観光連盟	専務理事	植松　秀訓	
アドバイザー	北海道アイヌ協会	事務局長	貝澤　和明	○

【随行者】

分野	所属名	役職名	構成員名（敬称略）	WEB
国	日高北部森林管理署	総括事務管理官	長﨑　隆憲	○
		事務管理官	伊藤　智哉	
	日高南部森林管理署	主任事務管理官	日野　道俊	
		事務管理官	阿部　達矢	○
	北海道開発局	開発連携推進課 上席専門官	高田　賢一	○
		開発連携推進課 課員	岩田　梨生	○
		帯広開発建設部 技術管理課長	飯田　孝	○
		室蘭開発建設部 技術管理課長	長谷川　武春	○
		室蘭開発建設部 技術管理課　専門官	金子　雅之	○
	北海道運輸局	帯広運輸支局 運輸企画専門官	山崎　健太	
		観光企画係長	経田　直哉	○
北海道	環境生活部	自然環境局 自然環境課 公園利用係長	今　哲也	○
		自然環境局 自然環境課 公園保全係長	藤田　竜太	○

	日高振興局	環境生活課 自然環境係長	林 正敏	○
	十勝総合振興局	環境生活課主任	山内 雄大	
市町村	帯広市	観光交流課主任補	尾籠 辰哉	○
		環境課係長	関井 かおる	○
	日高町	地域経済課 総括主幹	高橋 健	
	様似町	商工観光課係長	佐々木 将貢	
	芽室町	環境土木課 生活環境主査	久保田 伸也	
	中札内村	産業課主事補	工藤 翔太	

【事務局】

北海道地方環境事務所	国立公園課課長補佐	田畑 桂
	国立公園課課長補佐	相原 百合
帯広自然保護官事務所	上席自然保護官	柳田 邦雄
	自然保護官補佐	谷水 亨
新ひだか自然保護官事務所	自然保護官	草留 大岳
アジア航測株式会社		中山 里美
		木本 朝美
		髙田 雄介
		上山 沙恵子

資料１－１

日高山脈襟裳十勝国立公園ビジョン（案）

令和7（2025）年●月●日

日高山脈襟裳十勝国立公園協議会

資料１－１

目次

1. はじめに 2
（1）ビジョン策定の目的 2
（2）対象区域 2
（3）日高山脈襟裳十勝国立公園の概要 3
2. 価値・魅力 4
3. 現状と課題 6
（1）保護に関する事項 6
（2）利用に関する事項 10
（3）管理運営体制に関する事項 12
4. 基本理念 14
（1）自然環境の厳正な保護 14
（2）適正な利用の推進 14
（3）連携・協働の推進 14
5. 国立公園としてのビジョン（あるべき姿、目指すべき将来像） 15
（1）原生的な自然とその恵みを、後世まで守り伝えていく国立公園 15
（2）利用者のレベルに応じた楽しみ方があり、自然体験の質が確保されている国立公園 15
（3）みんなで国立公園のことを考え、連携・協働して管理運営に取り組む国立公園 15

1. はじめに

(1)ビジョン策定の目的

日高山脈襟裳十勝国立公園は、2024(令和6)年6月25日に日高山脈襟裳国定公園とその周辺地域を含めて新たな国立公園として指定されました。本公園の誕生は、長年にわたり日高山脈を核とした自然環境等を長年にわたり保全し、適正に利用するとともに、文化を育んできた地域の関係者及び関係機関の長年に渡る取組が評価され結実したものです。

本公園を未来に引き継ぎより良い姿にしていくためには、本公園が目指す将来像を明確にし、その実現に向けて関係者が連携して取組を進めていく必要があります。

このため、関係者が連携する場として「日高山脈襟裳十勝国立公園協議会」を設置し、同協議会において本公園が目指すべきビジョンを策定しました。

今後、本ビジョンの実現に向けて本公園と繋がるすべての関係者ができることを持ち寄り、連携して取組を推進することにより、世界水準の国立公園を目指します。

(2)対象区域

日高山脈襟裳十勝国立公園全域を対象とします。

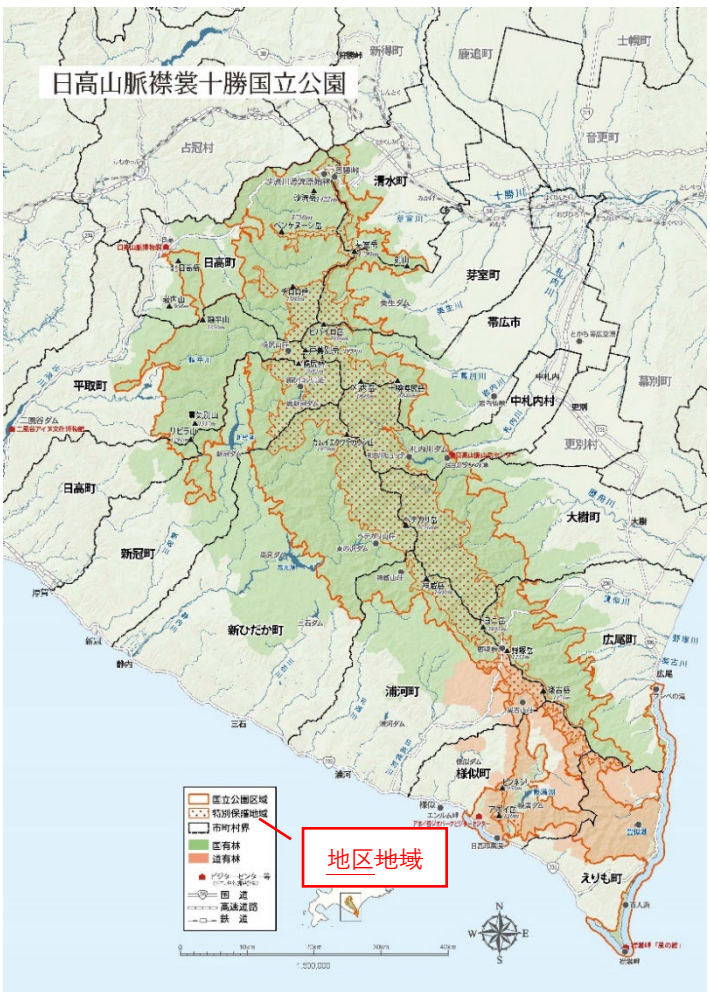


図1:日高山脈襟裳十勝国立公園　公園区域図

（3）日高山脈襟裳十勝国立公園の概要

本公園は、南北およそ140㎞に及ぶ日高山脈を中心とした陸域面積が日本最大の国立公園です。本公園は、地殻変動を受けて形成された非火山性連峰を基盤に、山地を核として育まれた深く原生的な自然林生態系が広がる風景を有するものとして、国立公園に指定されています。国内最大の原生流域が残された地域にあること、海から高山帯まで一体として指定されていることが大きな特徴です。

2. 価値・魅力

日高山脈襟裳十勝国立公園の核心部となる日高山脈は「北海道の背骨」と呼ばれ、鋭い稜線から急峻な山腹を経て広大な山麓へと続き、そこに日本最大の原生流域が広がっています。その成り立ちは、北海道付近において2つのプレートの衝突が進行し、東側のプレートの地殻がめくれ上がるように突き上げられたことに由来し、本来は地下深くにある地質の断面が連続的に地表に現れています。つまり、山脈を西から東へ横断すると、西側の地殻最下部から東側の地殻上部までの岩石を現在の地表で連続的に観察できる~~このような場所は~~世界的に見ても珍しい場所です。~~<~~また、ユネスコ世界ジオパークにも認定されているアポイ岳（標高810m）周辺には、地球深部（マントル）の様子を知ることができる新鮮なかんらん岩が見られます。

本公園はその特異な成り立ちととも共に、海岸から高山帯までの大きな標高差と南北方向に長い特徴から、多様な環境を有し、生物多様性に富んでいます。広大な山域~~一帯~~には、~~自然林が広がり、~~国指定天然記念物「沙流川源流原始林」をはじめとした自然林（天然林）が広がり、や我が国最大規模のまとまりをもつ原生流域も特筆されるものです~~などがあります~~。

日高山脈で育まれた動植物の死骸が分解されて河川に流れ込み、豊かな栄養分を海に運び、魚介類や海藻などを育んでいます。その海で栄養を蓄えたサケやアメマスなどは産卵のために川を遡上し、ヒグマやシマフクロウなどの食料となっています。このように、日高山脈を源流とし太平洋に注ぐ河川は、山岳から海に至る生態系のつながりを育んでいます。

また、日高山脈を源流とする河川の流域には、アイヌのコタン（集落）が形成され、アイヌの人々は、狩り場とした後背地や対岸に広がる原生林までを含めた一定領域をイオル[1]（伝統的生活空間）として、その中で動植物を活用して生業を営み、自然と共生して豊かな文化を育んできました。国指定名勝ピリカノカの構成資産「ポロシリ（幌尻岳や十勝幌尻岳）」や「オンネエンルム（襟裳岬）」をはじめ、祈りや崇拝の対象となってきた重要な場所も多くあります。また、アポイ岳やエンルム岬など、民話や伝説の題材になっている場所もあります。

最高峰である幌尻岳（標高2,052m）をはじめ、1,900m を超える山々が連なり、主稜線やカール地形周辺では高山植物が発達し、ヒダカキンバイソウなどの固有種を含む多様なお花畑が広がっています。山の成り立ちが古いことや特異な地形・地質を有する本公園では、他山系とは異なった高山植物相が見られるのも特徴です。森林にも多様なタイプがあり、針広混交林のほか、北部の亜寒帯性の針葉樹林や南部には道内ではやや珍しいミツデカエデやアカシデなどを含む冷温帯性の落葉広葉樹林が見られるほか、アポイ岳一帯のかんらん岩地帯にはキタゴヨウとアカエゾマツを主体とする針葉樹林が広がっています。

動物相も多様で、ヒグマ、エゾシカなどの大型哺乳類が多数生息します。氷河期の遺存種といわれるエゾナキウサギも分布し、日高山脈の南部では、低標高（標高50m）にも生息が確認されています。襟裳岬付近の海岸には、豊かな海を象徴するように、ゼニガタアザラシなどの海生哺乳類が生息しています。また、本公園では、自然度の高い植生や河川に支えられ、生態系の上位種であるシマフクロ

---

[1] イオル：イウォロやイウォル、イオロなどとも呼ばれる、アイヌの伝統的生活空間。動物の捕獲や山菜採取など、自然と共生していたアイヌの人々の伝統的な生活の場。

ウやクマタカなども生息しています。そのほか、国内ではアポイ岳にのみ生息するヒメチャマダラセセリ、陸産貝類の固有種アポイマイマイ、甲虫類の希少種チビゴミムシ類などが生息しています。

独特な自然景観にも魅力があります。日高山脈の稜線部には、寒冷期に氷河が作り上げたカール(圏谷)、ホルン(氷食尖峰)、アレート(鋸歯状山稜)などの氷食地形が見られます。山麓部に形成された険しい峡谷や断崖も、新緑や紅葉シーズンを中心に美しい景観を見せています。襟裳岬周辺では、海成段丘、海食崖、岩礁などの海岸地形が発達し、景勝地となっています。

さらに、本公園外の地域からも雄大な山々が連なる素晴らしい景観を見ることが出来ます。

本公園の利用上の魅力として、日高山脈の山々は、沢登りや、やぶこぎを要するコースも多く、ここでしか味わえない本格登山の魅力があります。ただし、日高山脈の登山には、十分な体力、知識や経験、的確な装備と登山計画が必要です。一方、低標高域にあるアポイ岳などの山には登山道が整備され、日帰りで行くことのできる人気のコースとなっており、高山植物や日高山脈らしい山岳景観を楽しむことができます。近年は山麓で雄大な山岳景観を眺望するだけではなく、サイクリングやラフティング、クルーズなどの新しい利用がされつつあります。

そのほかに利用だけではなく、国立公園の指定前から各地域でさまざまな環境保全の取組が行われ、登山道やトイレ利用の適正化、高山植物群落の再生事業などが地元を中心として行われています。

3. 現状と課題

(1)保護に関する事項

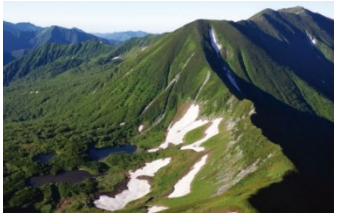
・高山生態系

日高山脈には、成り立ちが古く特異な地形・地質があり、固有種や隔離分布種が多く生育します。

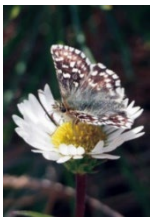
特にアポイ岳は、ヒダカソウなどの固有種や希少な隔離分布種が集中し、国指定特別天然記念物に指定されているアポイ岳高山植物群落は、国指定特別天然記念物に指定されています。また、国内では唯一のヒメチャマダラセセリの生息地です。しかし、ヒダカソウなどの希少植物は度々盗掘の被害を受け、大きく個体数が減りました。また、気候変動の影響と考えられる植生遷移の進行により、ハイマツ群落が増え、高山植物群落の衰退が進んでいます。ヒメチャマダラセセリもこの影響を受け、その個体数の減少が続いてきました。

日高山脈の高山帯全体においても、希少植物の盗掘被害のほか、エゾシカの増加やオーバーユース(登山道逸脱による踏み付け・トイレ問題など)によっても、貴重な高山生態系の希少種の生育基盤が脅かされています。

一方で、市民保護団体による高山植物の盗掘防止パトロールや登山者に対するマナーの啓発等が継続して行われているほか、地域ぐるみで高山植物群落の保全の取組もされています。


七つ沼カールと幌尻岳

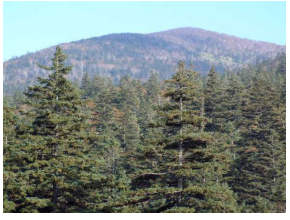
カムイエクウチカウシ山のお花畑

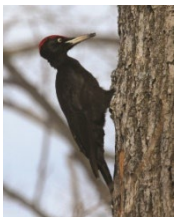

ヒメチャマダラセセリ

・森林生態系

日高山脈は広大な森林を擁し、原生的な森林も見られます。森林にも多様なタイプがあり、針広混交林のほか、北部には亜寒帯性の針葉樹林、南西部には冷温帯性の落葉広葉樹林、またアポイ岳一帯のかんらん岩地帯にはキタゴヨウとアカエゾマツを主体とする針葉樹林が広がっています。広大な森林が広がる本公園は、ヒグマやエゾシカのほか、天然記念物のクマゲラ、希少猛禽類であるクマタカなどの重要な生息地になっており、今後もクマゲラやクマタカが生息するためには大径木を含む発達した森林が必要になります。また、山地の岩場には氷河期の生き残りと言われるエゾナキウサギもが生息しています。

本公園内の国有林野の大部分には、林野庁の森林生態系保護地域が設定されており、モニタリング等を通じて、多様かつ原生的な天然林からなる森林生態系を保護・管理するための長期的な取組が行われています。


沙流川源流原始林

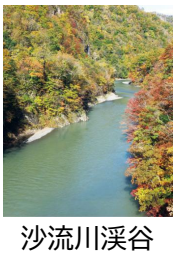

クマゲラ

エゾナキウサギ

・河川生態系

日高山脈に端を発する河川では、その水域や周辺環境の相互作用による河川生態系がも見られます。峡谷地形が随所に発達し、岩場にはヤシャゼンマイ、エゾトウウチソウ、ソラチコザクラなどの特色ある植物が生育し、下流の氾濫原にはケショウヤナギの群生が見られます。また、原生的な森林と河川を有する本公園は、国内希少野生動植物種に指定されているシマフクロウの重要な生息地になっています。

シマフクロウが生息するためには、餌となる魚類が豊富に生息する河川と、営巣木となる大径木を含む河畔林が必要になります。また、巣立ったシマフクロウも生息することができるよう、好適な河川環境が連続的に分布する環境を整えていく必要があります。また、ケショウヤナギのように、河川増水による氾濫原形成に依存する野生生物の存続に配慮していくことも、地域の生物多様性を保全するためには必要であり、生物の生息・生育・繁殖の場を保全・再生・創出するなど長期的な取組が必要です。


沙流川渓谷

砂礫地の多い歴舟川

ソラチコザクラ

シマフクロウ

・海浜や海洋の生態系

本公園南部の襟裳岬周辺には海岸断崖がところどころ発達し、ヒダカミセバヤをはじめ、北方系のコハマギクやチシマキンバイと温帯系のキキョウなどの希少な植物が混じって生育するほか、希少猛禽類のハヤブサが営巣しています。

また、襟裳岬付近の海岸には、豊かな海を象徴するゼニガタアザラシなどの海生哺乳類が生息しています。ゼニガタアザラシについては、特定希少鳥獣管理計画に基づきその個体群と沿岸漁業を含めた地域社会との将来にわたる共存を図る取組が進められています。

海洋の生態系は、河川を通して陸域の森林ともつながっており、その恵みが魚介類や海藻類を育んでいます。沿岸の岩礁帯には日高地方特産のミツイシコンブ（日高昆布）が豊富に生育することからコンブ漁やウニ漁が盛んで、その漁労風景は夏の風物詩にもなっています。

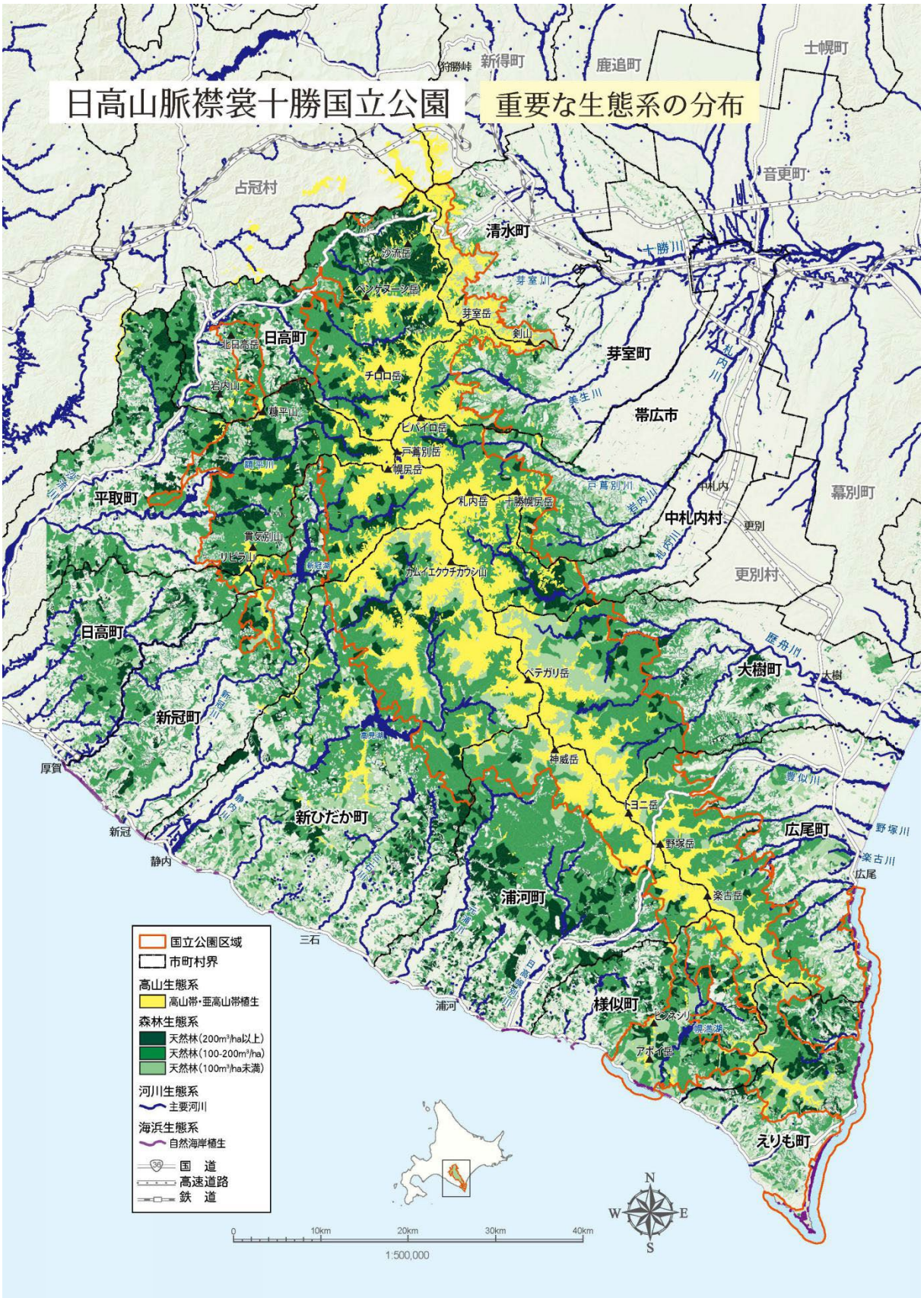
一方で、海水温の上昇など、海洋環境の変化に伴い漁獲される水産物に変化が見られています。また、海岸断崖の消失や改変も進んでおり、残された自然海岸を保持し、希少な動植物を保全することが必要です。

襟裳岬

ヒダカミセバヤ

ゼニガタアザラシ

コンブ干し



1　図2：日高山脈襟裳十勝国立公園　重要な生態系の分布図

（2）利用に関する事項

・登山利用等

日高山脈の山々には、原生的な自然や独特な山岳美に加え、沢登りや、やぶこぎなどを伴うここでしか味わえない本格登山を楽しめる魅力があります。しかし、日高山脈の登山には、怪我、遭難やヒグマ等の野生動物との遭遇など様々な危険が伴うため、十分な体力、知識や経験、的確な装備と登山計画が必要です。また、回復困難な稜線部やカールでの高山植物の踏み付け、野営による裸地化や、焚火の跡、ゴミの投棄、トイレ跡などが確認されているため、地域ルールの設定や一層のマナー等の周知の取組とともに、登山者のルール・マナー遵守が求められます。

一方、低標高域にあるアポイ岳などの山には登山道が整備され、比較的容易に高山植物や山岳景観を楽しむことができ、人気のルートとなっています。ただし、アクセスのしやすい場所では、観光客の集中による自然環境への負荷も懸念されており、オーバーツーリズムの未然防止・抑制が必要と考えられています。

沢登りを伴う幌尻岳登山

アポイ岳登山

剣山登山

・眺望を生かした観光等

日高山脈の独特な眺望にも魅力があります。山麓部の険しい峡谷や断崖もその一つで、札内川のピョウタンの滝や幌満峡（ほろまんきょう）などの景勝地だけでなく、日高山脈を横断する国道274号や236号沿いなどでも、新緑や紅葉シーズンを中心に美しい風景を見ることができます。また、襟裳岬周辺では、海食崖、岩礁、砂浜などの海岸地形が発達し、日高耶馬渓や百人浜、フンベの滝などの景勝地があります。さらに、十勝平野や日高沿岸をはじめ本公園外の地域からも、国立公園の核心部である雄大な山岳景観が一望できます。

ただし、利用面で拠点になるエリアが限られていることから、一部の景勝地に観光客が集中し、オーバーユースとなる懸念があります。既存の利用拠点の魅力向上、拠点エリア間（例えば、複数のビジターセンター間）の連携に取り組むほか、山麓部における豊かな自然を活かした自然に対する学びや体験の場の提供、情報発信の充実等により、滞在型の周遊観光につながる広域連携や利用の分散を図ることが求められます。

秋の豊似湖

日勝峠

日高国際スキー場

十勝平野から日高山脈

1　図3：日高山脈襟裳十勝国立公園　主要な路線・施設の分布図

（3）管理運営体制に関する事項

・関係機関・関係団体・関係者等（以下「関係者」という。）との連携

本公園には、ここでしか触れることができない多くの魅力や価値があると同時に、多くの課題があります。様々な課題に対応し、本公園をより良い姿にしていくためには、まずは関係者がそれぞれ理念を共有し、広域的に連携・団結して取り組んでいくことが欠かせません。国立公園の指定前から各地で問題意識を持って環境保全や自然体験活動等の取組が行われており、それぞれの地域で成果が蓄積されています。関係する行政機関や団体が多いことも本公園の特色の一つであり、お互いにできることを持ち寄り、連携することで課題解決に向けた大きな力になることが期待できます。さらに、少子高齢化が進行する社会において担い手の減少が課題となる中で、地域の関係者に限らず、より多くの方々の力を集約する仕組み等を考えていく必要があります。

・利用施設・拠点・体験プログラムの充実

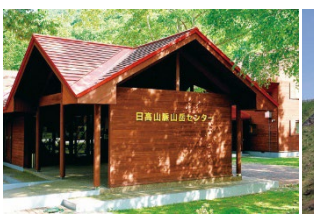
本公園は、多様な自然・文化的要素からなり、一箇所を訪れただけではその魅力を十分に理解することは難しく、本公園全体の魅力を紹介する情報発信機能も充実してはいません。また、観光コンテンツ[2]等の対価の一部が保護に再投資される仕組みもあまり整ってはいません。

本公園の魅力である多様な自然景観と、生活・文化・歴史が凝縮された物語を知ることで、忘れられない唯一無二の感動や体験ができるような、博物展示施設や体験プログラム等を提供することは大切です。また、ツアーコースや自然体験プログラムの造成にあたっては、自然環境への負荷や文化的要素に配慮し、利用者負担等により得られた対価の一部を保護の取組に活用する（再投資）など、保護と利用の好循環を目指すことは、持続的な地域づくりにつながります。各拠点の観光コンテンツも相互に紹介できるような情報共有体制づくりも、本公園全体の魅力発信・広域周遊につながります。

それらをサポートする自然ガイドや登山ガイド、歴史・文化を継承する担い手の育成も求められています。拠点施設のユニバーサルデザイン[3]化等の施設整備も課題になっています。

二風谷地区のコタン

アポイ岳ジオパーク
ビジターセンター


日高山脈山岳センター

襟裳岬「風の館」

---

[2] 観光コンテンツ：地域資源を活用して旅行者に提供する滞在・体験のプログラムやツアーのことを主に指す（「サステナブルな観光コンテンツの実践に向けた事例集（観光庁作成）」より引用）

[3] ユニバーサルデザイン：あらかじめ、障害の有無、年齢、性別、人種等にかかわらず多様な人々が利用しやすいよう都市や生活環境をデザインする考え方（障害者基本計画（平成14年12月閣議決定）

・自然・歴史・文化の学習のための人材・ソフトの充実

本公園には、自然や歴史・文化など、多くの魅力や価値があるものの、まだそれらに対する地域住民の理解・関心は十分ではないと思われます。国立公園をより良い姿にしていくためには、地域住民を含めた関係者一同が本公園の価値・魅力の共通認識を保つことが重要です。これまでも関係する各市町村の博物展示施設などが中心となって、地域の自然や歴史・文化など普及啓発の取組が行われてきており、そうした取組を継続・補強・発展していくことが必要です。

アポイ岳ジオパークビジターセンターの展示

4. 基本理念

海から山脈の最深部まで連続する日高山脈襟裳十勝国立公園は、原生的で雄大な山岳景観を体感できる貴重な場であり、多くの人々を魅了し続けています。また、その優れた自然環境は、地域の人々の生活・産業の源泉として重要な機能を果たすとともに、特有の風土や豊かな文化を育み発展させてきました。

この貴重な自然環境を将来世代に継承し、後世までその恩恵を享受できるよう、以下の事項を基本として関係者が連携して厳正な保護と適正な利用を推進することにより、世界水準の国立公園を目指します。

(1)自然環境の厳正な保護

本公園の最大の特徴である原生的な自然を重視するとともに、その自然が生活の源泉であり、地域の風土や文化を育んでいることを踏まえ、後世までこれらの恩恵を享受し続けられるよう、厳正に保護する。

(2)適正な利用の推進

本公園が持つ自然環境や文化景観としての価値を損なうことのないよう、誰もが本公園の価値とその保全の重要性を認識した上で、山、森、川、海への畏敬の念をもって行動し、適正な利用を推進する。また、想定する自然体験の質に応じた利用環境の整備及び管理を推進し、原生的な自然という特性を活かした質の高い体験を提供する。

(3)連携・協働の推進

関係するそれぞれの地域、そこで活動する様々な関係者、これらの関係者が実施している様々な取組について、連携・協働を推進することにより、効率的で効果的な公園管理に繋がることから、本公園の魅力向上を図るため各地域間、各関係者間、各取組の連携を推進する。

また、本公園内には一般利用者が車両等で気軽に来訪できる場所が限定されていることから、公園外の施設の活用などについて地域関係者との広域連携の取組を推進し、その価値や魅力の理解促進に努める。

さらに、利用ルールの設定、限定体験の提供、利用者負担等に取り組み、公正な利用とその対価が保護に再投資される仕組みをつくるとともに、脱炭素化や地産地消などに取り組み、自然環境の保護と利用が持続可能な地域づくりにつながるようにする。

5. 国立公園としてのビジョン（あるべき姿、目指すべき将来像）

基本理念に基づき、国立公園の厳正な保護及び適正な利用の推進を図るため、次のような国立公園を目指して日高山脈襟裳十勝国立公園の協働型管理運営を進めていきます。

（1）原生的な自然とその恵みを、後世まで守り伝えていく国立公園

- 本公園の根幹である原生的な自然や豊かな生物多様性が、その機能とともに良好な状態で厳正に保持されている
- 山から海までつながる独自の生態系や景観の連続性が良好な状態で維持され、自然の恵みを提供している
- アイヌの世界観をはじめとした自然環境と結びついた文化景観としての価値が維持されている

（2）利用者のレベルに応じた楽しみ方があり、自然体験の質が確保されている国立公園

- 利用者の特性（目的・趣向）やレベル（技術・情報）に応じた幅広い楽しみ方があり、何度も訪れたくなる
- 環境に回復困難な負荷をかけないように、適正なゾーニングや利用上のルール・マナーが示され、利用者や事業者にその情報が行き届き守られている
- 利用者は、唯一無二の感動・体験をすることができ、その感動・体験を通じて、本公園を含む地域の自然、生き物、文化、暮らし等を学ぶことができる

（3）みんなで国立公園のことを考え、連携・協働して管理運営に取り組む国立公園

- 多様な立場の関係する行政機関や団体が参画する協働型の管理運営体制等を活用しつつ、それぞれが役割を認識して主体的に取り組み、様々なアイデアを取り入れながら、相互に連携・協働した取組を推進している
- 原生的な自然や生物多様性を損なうことがないよう厳正に保護しながら、地域活性化が持続的に実現できるよう、保護と利用の好循環の仕組みや連携・協働した体制が構築されている
- 国立公園外を含む本公園に関係するあらゆる人々が、本公園の価値・魅力を共有して、知恵を出し合って連携して取り組んでいる。

参照文献

〇公園の指定書

- 環境省（2024）日高山脈襟裳十勝国立公園指定書［新規指定］．環境省

〇公園の策定にかかわる報告書類

- 財団法人国立公園協会（2007）平成19年度国立・国定公園総点検業務報告書．
- 財団法人国立公園協会（2008）平成20年度国立・国定公園総点検業務報告書．
- 財団法人国立公園協会（2009）平成21年度国立・国定公園総点検業務報告書．
- 株式会社建設技術研究所北海道支社・環境省北海道地方環境事務所（2013）平成24年度富良野芦別・日高山脈襟裳基礎資料収集分析業務報告書．
- パシフィックコンサルタンツ株式会社・環境省北海道地方環境事務所（2017）平成28年度日高山脈襟裳国定公園及び周辺地域調査業務報告書．
- 株式会社さっぽろ自然調査館・環境省北海道地方環境事務所（2018）平成29年度日高山脈襟裳国定公園及び周辺地域調査業務報告書．
- 株式会社さっぽろ自然調査館・環境省北海道地方環境事務所（2019）平成30年度日高山脈襟裳国定公園及び周辺地域調査業務報告書．
- 株式会社さっぽろ自然調査館・環境省北海道地方環境事務所（2020）令和元年度日高山脈襟裳地域に関する公園計画策定検討業務報告書．

〇日高山脈地域における調査報告書類

- 北海道（1978）日高山系自然生態系総合調査報告書（動物編）．
- 北海道（1979）日高山系自然生態系総合調査報告書（総説・植物篇）．
- 株式会社さっぽろ自然調査館（2008）平成20年度大雪・日高緑の回廊及び周辺に存する天然林等の森林環境等基礎調査委託事業報告書．北海道森林管理局
- 株式会社さっぽろ自然調査館（2008）平成20年度大雪日高地域の森林生態系保護地域等の設定等のための調査．北海道森林管理局
- 株式会社さっぽろ自然調査館（2011）日高山脈森林生態系保護地域設定報告書、大雪・日高緑の回廊設定報告書．北海道森林管理局
- 様似町（2021）特別天然記念物アポイ岳高山植物群落再生事業令和2年度実施報告書．様似町
- 様似町（2022）アポイ岳自然環境保全再生基本計画．様似町
- 渡辺修・渡辺展之（2022）保護区域を効果的に拡大するには．自然保護589

〇植物に関する総合的な文献

- 伊藤浩司（編著）（1987）北海道の植生．北海道大学図書刊行会
- 林田光祐（1989）北海道アポイ岳におけるキタゴヨウの種子散布と更新様．北海道大學農學部演習林研究報告,46(1),177-190
- 高橋誼（1990）日高山脈幌尻岳の高山植物．平取町商工観光課
- 新版「えりもの植物」出版実行委員会（1999）新版えりもの植物．えりも町教育委員会
- 高橋誼・田中正人（2003）アポイ岳の高山植物と山草．アポイ岳ファンクラブ
- 増沢武弘ほか（2005）特集1：アポイ岳の植物群落-アポイ岳の高山植物群落の現状と将来について．日本生態学会誌（55）
- 佐藤謙（2007）北海道高山植生誌．北海道大学図書刊行会

〇動物に関する総合的な文献

- 北海道環境科学研究センター（1996）ヒグマ・エゾシカ生息実態調査報告書Ⅱ野生動物分布等実態調査（ヒグマ：1991～1995年度）．北海道環境科学研究センター

- 柳川久・山田知江美・植田幹夫・市川利美（2004）北海道十勝・日高地方の翼手類相（3）えりも町猿留川上流部における捕獲記録．森林野生動物研究会誌
- 宮腰靖之（2007）サケ・マス類の生息環境と資源増殖に向けた取り組み．第4回河川環境と魚類に関するセミナー
- 川辺百樹（2008）北海道におけるエゾナキウサギの分布．上士幌町ひがし大雪博物館研究報告30号
- TomokiSakiyama,JunkoMorimotoc,OsamuWatanab,NobuyukiWatanab,FutoshiNakamura（2021）Occurrenceoffavorablelocalhabitatconditionsinanatypicallandscape:EvidenceofJapanesepikamicrorefugia．GlobalEcologyandConservation27

〇地質に関する総合的な文献

- 高橋功二・鈴木守（1986）5万分の1地質図幅「日高」および同説明書．北海道立地下資源調査所，44p
- 蟹江康光・酒井彰（2002）5万分の1地質図幅「浦河」および同説明書．地質調査所
- 松下勝秀・鈴木守（1962）5万分の1地質図幅「農屋」および同説明書．北海道立地下資源調査所，31p
- 北海道立地下資源調査所（1978）5万分の1地質図幅「岩知志（札幌-45）」および同説明書．北海道立地下資源調査所，46p
- 和田信彦・高橋功二・渡辺順・蟹江康光（1992）5万分の1地質図幅説明書『三石』および同説明書．北海道立地下資源調査所，73p
- 吉田尚・松野久也・佐藤博之・山口昇一（1959）5万分の1地質図幅「比宇（札幌-56）」および同説明書．北海道開発庁，54p
- 橋本誠二・鈴木守・小山内熙（1961）5万分の1地質図幅「幌尻岳（釧路-50）」および同説明書．北海道立地下資源調査所，46p
- 産業技術総合研究所地質調査総合センター（2002）地域地質研究報告（5万分の1地質図幅）「浦河地域の地質（釧路-69）」．北海道立地下資源調査所，43p
- 松野久也・山口昇一（1958）5万分の1地質図幅および同説明書『静内』．北海道開発庁，36p
- 酒井彰・蟹江康光（1986）地域地質研究報告（5万分の1地質図幅）「西舎地域の地質」．地質調査所

〇利用に関する総合的な文献

- 宮坂省吾・田中実・田近淳・中川光弘・岡孝雄（2011）札幌の自然を歩く[第3版]ー道央地域の地質あんない．北海道大学出版会
- 駒井千恵子・三浦忠雄（1998）フィールドガイド日高路．北海道新聞社
- 様似町（2010）アポイ岳ジオパークガイドブック．様似町
- 梅沢俊（2012）北の花名山ガイド．北海道新聞社
- 梅沢俊・菅原靖彦・長谷川哲（2020）最新第3版北海道夏山ガイド4日高山脈の山々．北海道新聞社

〇保全に関する総合的な文献

- 佐藤謙（1993）生物の多様性の保護を熟考した緑化を！百人浜緑化問題．北方林業45(8)
- 髙橋健（2001）日高山脈の魅力とファンクラブの活動．北海道の自然39
- 北海道自然保護協会（2006）日高山脈と夕張山地を国立公園とする要望書．北海道の自然44

意見番号	内容	御意見の概要	件数	事務局対応
1	1. はじめに (1)ビジョン策定の目的	5行目文頭直後「長年にわたり」を、4行目「本公園の誕生は、」の直後に移し、6行目「長年に渡る」を削る修正をご検討願います。原文が重複的な表現に感じるため、提案の修正であれば元の文意と変わらないものと思料します。		御意見のとおり修正します。
2	図 1: 日高山脈襟裳十勝国立公園 公園区域図	凡例にある「特別保護地域」は「特別保護地区」の間違いではないでしょうか。ご確認ください。		御意見のとおり修正します。
3	1. はじめに (3)日高山脈襟裳十勝国立公園の概要	日高山脈の原生的な自然は、森林だけでなく森林限界を超えた高山の領域にも認められ、それとともに、本公園の自然は森林だけではなく、高山に多くの特徴が認められます。それ故、パブコメ版の「原生的な自然林生態系」は、日高山脈の自然を正しく捉えない、間違った表現になります。したがって、ここは「山頂・山稜に成立する高山植生と山腹から山麓を広く被う自然林から構成される、原生的な自然生態系」と修正すべきです。自然林の広がりは日高山脈の一つの大きな特徴ですが、ここでは「林」を外すべきです。		日高山脈襟裳十勝国立公園指定書「1. 指定理由」からの引用であり、原案のままとします。
4	2. 価値・魅力	日高山脈の成り立ちとして、プレートの衝突が記述されていますが、日高山脈全域の地質の特徴がほとんど記されていません、その上で「世界的に見ても珍しい」と記されていますので、何が珍しいのか理解できません。「その成り立ちは、(中略)新鮮なかんらん岩が見られます。」の部分を以下のように少し具体的に記述してしてはいかがでしょうか。 「その成り立ちは、北海道付近において2つのプレートの衝突が進行し、東側のプレートの地殻がめくれ上がるように突き上げられたことに由来し、本来は地下深くにある地質の断面が地表に連続的に現れています。つまり、山脈を西から東へ横断すると、西側の地殻最下部から東側の地殻上部までの岩石を現在の地表で連続的に観察できる世界的にも珍しい場所です。また、ユネスコ世界ジオパ		御意見のとおり修正します。

		ークにも認定されているアポイ岳（標高 810m）周辺には、地殻よりも深いマントルの様子を知ることができる新鮮なかんらん岩が見られます。		
5	2. 価値・魅力	表記ゆれをかな表現に訂正。他箇所は「とともに」とあるが、この箇所だけ「と共に」と漢字表記となっています。		御意見のとおり修正します。
6	2. 価値・魅力	「広大な山域一帯には自然林が広がり、国指定天然記念物「沙流川源流原始林」や我が国最大規模のまとまりをもつ原生流域などがあります。」は、不正確な表現ですので、以下のような修正を望みます。「広大な山域は、国指定天然記念物「沙流川源流原始林」をはじめとした自然林（天然林）が広がり、我が国最大規模のまとまりをもつ原生流域として特記されます。」		御意見を踏まえ、以下のとおり修正します。 「広大な山域には、国指定天然記念物「沙流川源流原始林」をはじめとした自然林（天然林）が広がり、我が国最大規模のまとまりをもつ原生流域も特筆されるものです。」
7	2. 価値・魅力	まず、この段落は、内容的に、次の段落に記述されている動物とともに、アイヌ文化の前の 3～4 段落目に位置づける方が本公園の自然の理解を容易にします。 また、この段落における植物の記述内容は、間違いが多いので、以下のように修正すべきです。「日高山脈北部では、最高峰である幌尻岳（標高 2,052m）をはじめ、1,900m を超える山々が連なり、稜線（風衝地）からカール地形（雪崩地や雪田など）に至る環境変化に応じて多様なお花畑（高山植物群落）が発達しています。山脈の中部から南部にかけては 1,800m 台から 1,500～1,300m 台へ標高が低くなりますが、山頂・山稜の風衝地と雪崩地に高山植物群落が成立しています。日高山脈の高山植物相は、固有種ヒダカキンバイソウや隔離分布種ヒダカゲンゲなど、古い山の成り立ちや特異な地形・地質と関係して他山系とは異なる特徴が認められます。森林も多様であり、全域に広くダケカンバ林が発達するほか、中腹（亜高山帯）の亜寒帯性常緑針葉樹林と山麓（山地帯）の針広混交林、アポイ岳を含む南端部の山麓では、北海道では珍しいミツデカエデやアカシデなどが混生する冷温帯性落葉広葉樹林や針広混交林、さらにはキタゴヨウとアカエゾマツが混生するかんらん岩地と結びつ		学術的正確性を突き詰めると非常に長文になり、幹事会におけるこれまでの議論の前提である、中学生くらいが読める・読んで理解できるビジョンとはなりにくいです。他方、明確な誤りがあるのであれば、正す必要があります。 このため、有識者にヒアリングを行い、簡潔かつ誤りのない文案を検討し、おって幹事会に書面で諮ることとします。

		いた針葉樹林が広がっています。」		
8	2. 価値・魅力	「地形・地質」の表現を次のように見直すことができないかご検討願います。 案原文「山の成り立ちが古いことや特異な地形・地質を有する本公園では、～」 修正案「山の成り立ちが古く特異な地質に発達した地形を有する本公園では、～」 理由：日高山脈の形成史を考えるうえで地質と地形は分けて表現すべきと考えます。 地質に関して学界では、プレート衝突から変成岩体の生成、初期の隆起が概ね25百万年前（地質学論集第 47 巻 1997.1 ほか）と認識されているようです。また、地理学界の特に第4紀学では、当山脈の「氷河地形」や「周氷河地形」の形成期が支笏、樽前などの火山灰テフラ等を用い研究されており（古いところでは、平川、小野、小疇など）、現在の地形は概ね1万から数千年前に成立したと考えられているようです。 おそらく襟裳岬、アポイ岳や北日高カンラン岩体（額平岳）が地質イベントにより、山岳核心部のカール、ホルン、アレートなどが地形イベントにより造られたのだと思います。 両者の形成年代は、明らかに千倍を超える時間軸により隔てられています。よって、文章表現として「地形・地質」を一からげに、「成立が古く」とくくることは、本国立公園が特筆すべき自然景観の形成史を表するには、いささかまとめすぎであり、現時点で確からしい適切な形成史の時間軸が表現できるよう修正案を提案します。 なお、南紀熊野ジオパークの解説リーフレットで見た地形・地質の比喩として、ショートケーキの土台となるスポンジを焼き上げることが地質の形成で、スポンジをかたどったり、生クリームでデコレーションすることが地形の形成という表現がされていました。となればイチゴが、たぶん植生です。		有識者に確認した結果を踏まえて、原案のままとします。
9	2. 価値・魅力	日高山脈では、標高の高い北部を中心に氷食地形であるカール地形が認められます。しかし、ヨーロッパアルプスやロッキー山脈、あるいは日本アルプスなどに見られる、岩が露出し尖った山頂（ホルン）や鋸状に岩峰が並ぶ岩稜（アレート）は、現在の日高山脈では明瞭ではありま		日高山脈襟裳十勝国立公園の公園計画書にある表現であり、原案のままとします。

		せん。いまの日高山脈は山頂も山稜も密に植生に被われ、上記地域と自然景観が異なります。日高山脈は、過去には上記地域と同様にホルンやアレートが明瞭であったと推測されますが、現在は、自然景観としての氷食地形はカール（圏谷）が主体になっています。したがって、ホルンとアレートの使用は止めた方が良いと考えます。		
10	2. 価値・魅力	「さらに、本公園外の地域からも雄大な山々が連なる素晴らしい景観を見ることが出来ます。」の部分については、 十勝平野から見る屹立した日高山脈が延々とした連なる雄大な眺望は、日本の他の地域ではあまりないと思われるので、 このことを日高山脈の価値・魅力として強調した方が良いと思います。		御意見を踏まえ、改行し、段落を分けることにより、強調しました。
11	3.現状と課題 （1）保護に関する事項	保護に関する事項の現状と課題に関する記述は、極めて不十分で間違いが多いので、まず、自然科学の各分野の専門家の指導を得て改めて書き直すべきと考えます。 ８頁の図2（日高山脈襟裳十勝国立公園 重要な生態系の分布図）では、凡例として、高山生態系（高山帯・亜高山帯植生）、森林生態系（3種類の天然林）、河川生態系（主要河川）、ならびに海浜生態系（自然海岸植生）の4生態系が図示されており、この生態系ごとに保護に関する事項が記述されています。しかし、図2に示された上記生態系区分は、自然科学的に見て大きな間違いとなるため、生態系ごとの記述においても間違いが多く生じています。 まず、高山生態系は、一般に、森林限界を超えた植生（非森林植生）の領域に使用されています。しかし、図２では、高山生態系の凡例が高山帯・亜高山帯植生とされているため、山頂・山稜にある非森林植生（ハイマツ低木林や各種高山植物群落）だけではなく、山腹急斜面（亜高山帯）に広く発達するダケカンバ林を合わせて高山生態系と呼んでおります。植生生態学的にみると、日高山脈における高山生態系は、山頂・山稜・カール地形・沢の源頭部・かんらん岩地などに限られるため、それらの面積は図示よりかなり小面積になるのが実際です。このような高山生態系には、固有植物、隔離分布植物をはじめとする希少生物が集中していますので、日高山脈の生物多様性保全上、高山生態系は正しく示される必要があります。 次に、日高山脈の森林生態系は、実際には、亜高山帯の		学術的正確性を突き詰めると非常に長文になり、幹事会におけるこれまでの議論の前提である、中学生くらいが読める・読んで理解できるビジョンとはなりにくいです。他方、明確な誤りがあるのであれば、正す必要があります。 このため、有識者にヒアリングを行い、簡潔かつ誤りのない文案を検討し、おって幹事会に書面で諮ることとします。

		ダケカンバ林と常緑針葉樹林、山地帯の針広混交林と落葉広葉樹林から構成されています。図２における森林生態系は、山脈に広く発達するダケカンバ林を除外していますので、森林生態系が極めて不正確に示されております。日高山脈の亜高山帯以下に見られる森林生態系は、森林施業対象外であったダケカンバ林が原生林として広大な面積を占める点に大きな特徴があり、同様に施業対象外であった亜高山帯常緑針葉樹林の「沙流川源流原始林」やアポイ岳一帯のかんらん岩地における国指定特別天然記念物「アポイ岳高山植物群落」と天然記念物「幌満ゴヨウマツ自生地」の各森林が原生林として特記されます。 図2は、森林施業対象とされる「天然林」の分布図を基本とし、それを生態学的に間違った凡例（4 つの生態系）に当てはめて引用した点で、多くの間違いを生じさせています。図2では、森林施業対象外であるダケカンバ林が高山植物群落と一括され、天然林から除外されていたが、生態系分布図に間違って読み替えたことになります。 林学・林業上の「天然林」は、植生生態学における「自然林（原生林を含む）」に概ね該当しますが、「二次林」も含み、「人工林（植林）」と対比されます。このことは、環境省による「植生自然度」の区分によって理解できます。植生生態学や人為の影響度合いを示す植生自然度の観点から、天然林ではなく自然林（天然林）と表現することが正しくなります。 したがって、生態学から見て大きな間違いを含むので、図2の使用を止め、環境省作成の現存植生図と植生自然度図に代えるべきです。そこでは、高山帯・亜高山帯・山地帯の植生が区分されておりますので、生態系区分に重要な資料になります。そのことによって、ビジョン案の間違いがはるかに減少すると判断します。 ただし、環境省現存植生図は凡例が多いので、日高山脈全域の植生・生態系を正確かつ簡略に図示するためには、植生専門家の指導を得て、詳細凡例を包括的な凡例に括り直し、保護と利用に関する基本図として作成する必要があります。		
12	3. 現状と課題	高山生態系に関する記述は、南端のアポイ岳に重点が置かれ、日高山脈全域の特徴がほとんど記述されていませ		学術的正確性を突き詰めると非常に長文

	(1)保護に関する事項・高山生態系	ん。高山生態系の多くは、山頂・山稜(風衝地)とカール地形(雪崩地と雪田)に発達しています。風衝地ではヒダカゲンゲ、ユキバヒゴタイなどの隔離分布植物、雪崩地ではヒダカキンバイソウなどの固有植物、雪田ではタカネクロスゲなどの隔離分布種が見られ、カール内の岩塊堆積地では氷期の生き残り(遺存種)であるエゾナキウサギが見られます。比較的狭い高山生態系に日高山脈の生物多様性を特徴づける希少生物が集中しています。このような比較的狭い高山生態系に登山道やキャンプ地が重なっており、またエゾシカの食害が高山植生に及んでいますので、保護と利用を考える前に、自然の現状を早々に把握する必要があります。希少生物や貴重な高山生態系における現状把握は、ビジョンに明記されるべき重要課題です。 南端のアポイ岳周辺はもちろん特記されますので、その記述は残し、日高山脈全域の高山生態系について上記のような記述を加える必要があります。		になり、幹事会におけるこれまでの議論の前提である、中学生くらいが読める・読んで理解できるビジョンとはなりにくいです。他方、明確な誤りがあるのであれば、正す必要があります。 このため、有識者にヒアリングを行い、簡潔かつ誤りのない文案を検討し、おって幹事会に書面で諮ることとします。
13	3. 現状と課題 (1)保護に関する事項・高山生態系	本パラグラフは、よく読めばそうではないとわかるのですが、アポイ岳のみを取り扱っている印象を受けます。アポイ岳は、本国立公園の中でも特異な低標高地に高山生態系が成立していることに疑いはありません。7行目最後段「また、～」からが、アポイ岳以外の高山生態系を扱ったものと思いますが、他のエリアも触れていることがわかるよう修正をご検討願います。 (修正案) 「特にアポイ岳は、ヒダカソウなどの固有種や希少な隔離分布種が集中し、アポイ岳高山植物群落は国指定特別天然記念物に指定されています。また、国内では唯一のヒメチャマダラセセリの生息地です。」→「特にアポイ岳は、ヒダカソウなどの固有種や希少な隔離分布種が集中し、国指定特別天然記念物に指定されているアポイ岳高山植物群落は、国内で唯一のヒメチャマダラセセリの生息地でもあります。」		御意見を踏まえて修正しました。なお、7行目「また、～」のについては、アポイ岳に関する記述なので、原案のままとしました。 ※本公園周辺の年間気温が上がっており、アポイ岳以外の高山生態系にも気候変動の影響が出ていると推測されますが、研究論文等による確認ができていません。 (参考)日高地方:年ごとの値(気象庁)
14	3. 現状と課題 (1)保護	「地形・地質」の表現を次のように見直すことができないかご検討願います。理由は4項 24 行目と同様です。 案原文「日高山脈には、成り立ちが古く特異な地形・地質		有識者に確認した結果を踏まえて、原案のままとします。

	に関する事項・高山生態系	があり、固有種や隔離分布種が多く生育します。 修正案「日高山脈には、成り立ちが古く特異な地質に発達した地形があり、固有種や隔離分布種が多く生育します。」		
15	3. 現状と課題 (1)保護に関する事項・高山生態系	「希少」は、あえて使用しなくてもよいと思料します。5行目で希少植物の例示として「ヒダカソウ」があがっていることと、再度ヒダカソウを「希少」とすることで、よからぬ考えを持つ方々が、ことさらヒダカソウを注目するおそれが高まると考えています。「希少」に関しては、この箇所で例示していますが、他の項や段落に共通の意見です。 （修正案） 「しかし、ヒダカソウなどの希少植物は度々盗掘の被害を受け、大きく個体数が減りました。」→「しかし、ヒダカソウなどの植物は度々盗掘の被害を受け、大きく個体数が減りました。」 「・・・によっても、希少種の生育基盤が脅かされています。」→「・・・によっても、貴重な高山生態系の基盤が脅かされています。」		御意見のとおり修正します。
16	3. 現状と課題 (1)保護に関する事項・高山生態系	「保護団体」を「市民団体」とするよう検討できないでしょうか。ここにあげられた活動は、山岳会、北海道自然保護協会、山トイレの会など具体的なプレーヤーがあるものが上がっていると思います。十勝や日高地域の関係者とくに各種の現場レベルではしばしば保護と対立する構図がこれまでも多くあり、「保護」という語感が、中々に強い負の印象を与えます。今後本ビジョンによる活動が、地域へ浸透していくことを目指すのであれば、「市民団体」といった「行政によらず自発的に活動する集団」という意味合いにするほうがビジョンの浸透や進行上は、望ましく思えます。 （修正案） 「一方で、保護団体による・・・」→「一方で、市民団体による・・・」		御意見のとおり修正します。
17	3. 現状と課題 (1)保護に関する事項・森林生	「日高山脈は広大な森林を擁し、原生的な森林も見られます。森林にも多様なタイプがあり、針広混交林のほか、北部には亜寒帯性の針葉樹林、南西部には冷温帯性の落葉広葉樹林、またアポイ岳一帯のかんらん岩地帯にはキタゴヨウとアカエゾマツを主体とする針葉樹林が広がっています。」 この表現は、曖昧であり、間違いを含ん		学術的正確性を突き詰めると非常に長文になり、幹事会におけるこれまでの議論の前提である、中学生くらいが読める・読

	態系	でいますので、以下の文案に代えていただきたい。 「日高山脈は広大な森林生態系を擁しており、多様な群落タイプが認められます。そのうち、全域にわたって急峻な山腹斜面に発達するダケカンバ林、保護地域である北部沙流川源流域の亜高山帯（亜寒帯）常緑針葉樹林、ならびに南端部アポイ岳周辺かんらん岩地のキタゴヨウ・アカエゾマツ林は、それぞれ原生林として特記されます。そのほか、全域の亜高山帯（亜寒帯）常緑針葉樹林と、山地帯（冷温帯）の針広混交林と落葉広葉樹林という、道内に普通な森林も自然林（天然林）として広がっています。		んで理解できるビジョンとはなりにくいです。他方、明確な誤りがあるのであれば、正す必要があります。 このため、有識者にヒアリングを行い、簡潔かつ誤りのない文案を検討し、おって幹事会に書面で諮ることとします。
18	3. 現状と課題 (1)保護に関する事項 ・森林生態系	「山地の岩場には氷河期の生き残りと言われるエゾナキウサギが生息しています。」について、以下の理由から修正が必要です。エゾナキウサギは、七つ沼カールなど高山生態系の岩塊堆積地に生息しており、一方で、山腹～山麓（亜高山帯～山地帯）の風穴地（岩塊堆積地）にも見られます。このような分布は、大雪山の高山帯と大雪山東麓（十勝～北見地方）の風穴地にわたる分布と似ています。したがって、以下の修正を願います。「七つ沼カールなど高山生態系に生息する氷期の生き残りと言われるエゾナキウサギは、札内川流域や猿留川流域など低標高の風穴地にも点在して生息しています。」なお、岩場は崖地と岩塊堆積地を含みますが、エゾナキウサギ生息地は崖地ではありませんので、岩塊堆積地と記すべきでしょう。		原案の「山地の岩場」は不正確と理解し、他方、ご提示の生息地の情報を具体的に記載することは保護の観点から懸念があるため、生息環境は記載しないものとした。
19	3. 現状と課題 (1)保護に関する事項 ・河川生態系	河川生態系の記述において、魚類や水生昆虫の内容が記述されていません。このことは、河川生態系の生物主体を書かないので、よろしくないと思います。山脈のサケ科魚類には、アメマスのような降海魚、オショロコマのような陸封魚、移入されたニジマスなどが認められ、地球温暖化との関係からオショロコマが源流域に閉じ込められ、さらに減少することが危惧されています。このような現状が書かれるべきであり、河川生態系の課題は、他の生態系にもつながりますが、まずは現状把握から保護と利用を考える観点を明記すべきと考えます。 なお、ヤシャゼンマイやアポイタヌキランは河川沿いで時に冠水する生育地にある渓流植物ですが、エゾトウウチソウとソラチコザクラは必ずしも河川と結びつかない湿った		学術的正確性を突き詰めると非常に長文になり、幹事会におけるこれまでの議論の前提である、中学生くらいが読める・読んで理解できるビジョンとはなりにくいです。他方、明確な誤りがあるのであれば、正す必要があります。 このため、有識者に

		崖地の植物ですので、河川生態系の中で記述することに違和感が生じます。後の2種は省略すべきです。 なお、ケショウヤナギのような氾濫による撹乱が多い河床、その周辺の河岸段丘面に成立するドロヤナギ林など、河床林・河畔林が河川生態系の中で述べてよいのか、あるいは森林生態系ではないか、再確認する必要があると思います。 生態系として記述するのであれば、水生昆虫・魚類・シマフクロウ・キタキツネ・エゾヒグマなど生き物のつながり（食物連鎖）について、簡単であっても触れるべきと思います。		ヒアリングを行い、簡潔かつ誤りのない文案を検討し、おって幹事会に書面で諮ることとします。
20	3. 現状と課題 (1)保護に関する事項 ・河川生態系	「河川生態系も～」→「河川生態系が～」とするほうがよいと思います。文意として、前段「森林生態系」の大きな広がりから河川との関連性が在る部分に限定し、助詞「も」を使われたと思いますが、本書の読み手からは、単に豊かな河川生態系が日高山脈にあることが理解できれば良いので、格助詞「が」の使用で足るものと思います。		御意見のとおり修正します。
21	3. 現状と課題 (1)保護に関する事項 ・河川生態系	「するためは～」→「するために（には）～」とするほうがよい。「には」の単純な記載ミスかと思われます。意味合いとして、「に」も「には」もいずれでも通ずると思いますので、修正ご検討のほどお願いします。		御意見のとおり修正します。
22	3. 現状と課題 (1)保護に関する事項 ・海浜や海洋の生態系	図２では海浜生態系（自然海岸植生）と図示されており、本文では海洋生態系として沿岸生態系の内容が記述されています。これらの混乱は誤解を招きますので、整理された記述に推敲していただきたい。		学術的正確性を突き詰めると非常に長文になり、幹事会におけるこれまでの議論の前提である、中学生くらいが読める・読んで理解できるビジョンとはなりにくいです。他方、明確な誤りがあるのであれば、正す必要があります。 このため、有識者に

				ヒアリングを行い、簡潔かつ誤りのない文案を検討し、おって幹事会に書面で諮ることとします。
23	3. 現状と課題 (2)利用に関する事項 ・登山利用等 図3： 日高山脈襟裳十勝国立公園 主要な路線・施設の分布図	図3の主要路線には、以下の歩道（登山道）が示されています。山脈の南から北に向かって、豊似湖・猿留山道・豊似岳、様似山道・アポイ岳～ピンネシリ、楽古岳（西尾根）、神威岳、ペテガリ岳、コイカクシュ札内岳・ヤオロマップ岳・1839峰、カムイエクウチカウシ山、イドンナップ岳、十勝幌尻岳、幌尻岳・戸蔦別岳・ピパイロ岳、チロロ岳、剣岳、芽室岳および日勝峠・ペケレベツ岳です。 このうち、山脈北部の最高峰幌尻岳周辺や中部のペテガリ岳や神威岳、および南部の楽古岳、アポイ岳、豊似岳などへの登山道以外には国土地理院地図（2 万 5000 分の 1）において歩道（幅員 1m 以下）として表示されているものはありません。山稜上にある登山道も登山道として整備されたものではなく、昔からの登山者の歩行によって自然発生的にできたものである。このように、日高山脈の登山道は、地元の登山関係者により整備されている一部の登山道を除き、登山道として管理されているものは少ないです。例えば、カムイエクウチカウシ山の登山道は札内川八ノ沢沿いの踏み跡、そして上部では沢そのものであり、特にコイカクシュ札内岳山頂より南のヤオロマップ岳～1839峰間は登山道とは言えない踏み分けに過ぎません。したがって、国土地理院地図（2 万 5000 分の 1）に歩道（幅員 1m 以下）として表示されていないルートについては、安全確保と希少種・希少群落の保護の観点から、保護と利用のゾーニングが検討されていない現段階では、図3の歩道から除外すべきと考えます。 もちろん、既存のルートについても安全確保と希少種・希少群落の保護の観点から再検討することは言うまでもありません。 全般に、日高山脈の登山道は、多くが山頂・山稜上やカール内で希少種を含む高山植物群落の中に設けられており、これまで登山者が設置してきたキャンプ地も諸処に認められます。したがって、希少種と希少植物群落の保護の観点から、慎重な現状把握が必要です。その上で、		記載されている路線は、すでに日高山脈襟裳十勝国立公園の公園計画に定める道路（歩道）を示すものであり、原案ままとします。

		管理すべき登山道の設定や利用の程度を検討すべきと考えます。こうした登山道は、長い間、多数の登山者が利用してきた明瞭な歩道（国土地理院地図に示されている登山道）とは異なりますので、上記のような現状把握と慎重な検討を行わずに、ビジョン案に明示することには強く反対いたします。		
24	3.現状と課題（2）利用に関する事項	（パブコメ案）また、高山植物の踏みつけ、 （意見）　また、回復困難な稜線部やカールでの高山植物の踏みつけ、（文言の追加） （理由）　現状の課題をより明確にすることで、実効性の高い厳格な保護、適正な利用の推進に結びつけるため		御意見のとおり修正します。
25	3.現状と課題（2）利用に関する事項	一定のマナーの周知や遵守が利用者各自の判断に委ねられることとなり、マナーの理解度が利用者によって温度差があるのでビジョン案で望んだような適切なマナー遵守がきちんとなされるのか疑問です。 そうであるならば地元自治体および登山団体など幅広く日高山脈界隈で活動を行う利害関係者において、地域ルールを設定し、利用者に対して明確な指針を示すことが必要なのではないかと考えます。 （修正案） 「高山植物の踏み付け、野営による裸地化や、焚火の跡、ゴミの投棄、トイレ跡などが確認されているため、一定のマナー等の周知の取組とともに、登山者のマナー遵守が求められます。」→「高山植物の踏み付け、野営による裸地化や、焚火の跡、ゴミの投棄、トイレ跡などが確認されているため、地域ルールを設定した上で一定のマナー等の周知の取組とともに、登山者のマナー遵守が求められます。」		御意見を踏まえ、以下のとおり修正します。 「高山植物の踏み付け、野営による裸地化や、焚火の跡、ゴミの投棄、トイレ跡などが確認されているため、地域ルールの設定や一層のマナー等の周知の取組とともに、登山者のルール・マナー遵守が求められます。」
26	3. 現状と課題（2）利用に関する事項・眺望を生かした観光等	この中に、「山麓部における豊かな自然を活かした自然に対する学びや体験の場の提供」が記されております。このこと自体については、賢明な利用の観点から推進に賛成します。ただし、低標高の山麓においても希少種が見られ、低標高地の自然林が見られますので、人為の影響を与える場合には、その利用の程度や規模にかかわらず、自然の現状把握と影響評価をすると明記していただきたい。 上記の５頁４～５行目のところで指摘した,日本の他の地域ではあまりないと思われる十勝側の延々と連なる雄		オーバーユースの懸念、本公園外の地域からも雄大な山岳景観が一望できる点について触れているので、原案のままとします。

		大な日高山脈の眺望を本公園の大きな特徴として強調すべきです。		
27	3．現状と課題 (3)管理運営体制に関する事項 ・関係機関・関係団体・関係者等（以下「関係者」という。）との連携	本公園の管理運営では、多くの方々が連携する体制が必要であることが記されています。このことは、後述されている４．基本理念 (3)連携・協働の推進と、5．国立公園としてのビジョン（あるべき姿、目指すべき将来像）(3)みんなで国立公園のことを考え、連携・協働して管理運営に取り組む国立公園において、繰り返し記述されています。関係者みんなで管理・運営を行う体制について、基本的には賛成します。 しかし、保護と利用に関わる国立公園地域の自然の現状把握を担う体制についてはまったく触れられていません。日高山脈は、峻険な地形と管理された登山道が少ない状況に現れている原生的自然の広がりに大きな特徴があります。このことは、自然科学的研究が容易に進まない現状につながり、世界自然遺産に指定されている知床半島によく似ています。日高山脈の自然に関する既存研究には、重要なものが少なくありませんが、定期的な自然の現状把握がなされているとは言えない状況が続いております。本公園のビジョン（パブコメ版）も、近年の現状把握に基づいているとは決して言えません。 したがって、山脈の自然を知る研究者の組織を設置する必要があります。知床世界自然遺産における科学委員会と同様な組織を、上記「関係者」の中に位置づけ、その中で本公園の保護と利用の兼ね合い、登山道やキャンプ地の在り方、保護と利用のゾーニングなどについて、まずは科学的に検討することが極めて重要と考えます。次に書かれている利用プログラムの充実も重要ですが、保護と利用の兼ね合いを判断できる保護プログラムの充実もまた本公園の大きな目的になりますので、その組織を「関係者」の中に位置づけるべきです。		科学者を関係者に含むことを排してはおりません。事務局によるヒアリングの実施、協議会へのアドバイザーとしての招へいなどにより、必要に応じて意見を聞くものとします。
28	3．現状と課題 (3)管理運営体制に関する事項	これらは、本公園の利用に関して、重要な項目と考えます。しかしながら、広大な山麓（山地帯ないし亜高山帯）における利用と、とりわけ貴重な山頂・山稜（高山生態系）における利用とは区別した保護・利用計画が必要です。いずれにおいても自然に悪影響を及ぼさない利用の方法を考えていく必要があります。本公園の賢明な利用に関して、それぞれの自然の現状把握から始まり、自然の		御意見については、今後ビジョンに基づき、具体的な取組を検討していくにあたり、参考とさせていただきます。

	・利用施設・拠点・体験プログラムの充実 ・自然・歴史・文化の学習のための人材・ソフトの充実	特徴の周知・自然教育と実際の保護管理に至る体制を用意する必要があります。 例えば、山麓における自然を把握し、自然教育に反映させる仕組み、自然ガイドの充実が求められ、他方で、高山生態系における自然の現状を把握し、賢明な利用を考える体制を構築していただきたいと考えます。そうした内容の記述をぜひ加えていただきたいと考えます。		
29	4.基本理念 (2)適正な利用の推進	(パブコメ案)山や海への畏敬の念をもって行動し、 (意見)　　山、森、川、海への畏敬の念をもって行動し、 (文言の追加) (理由) 　パブコメ案の「山」のイメージが漠然とし人によって捉え方が異なるため、「山」に包括されがちな森林と河川の位置付けと重要性を明確にするため 　本公園は原生的な森林と河川を有すること 　本公園の原生的な自然や豊かな生物多様性は、森林と河川が深く関わっていること 　本公演の独特の生態系や景観の連続性は、森林と河川が深く関わっていること アイヌの信仰や祈りでは、森の神、川の神を重要視しそれぞれ敬っていること		御意見のとおり修正します。
30	4.基本理念 5. 国立公園としてのビジョン(あるべき姿、目指すべき将来像)	標記の基本理念とビジョンに関して、それぞれ(1)自然環境の厳正な保護と(1)原生的な自然とその恵み、後世まで守り伝えていく国立公園、(2)適正な利用の推進と(2)利用者のレベルに応じた楽しみ方があり、自然体験の質が確保されている国立公園、そして(3)連携・協働の推進と(3)みんなで国立公園のことを考え、連携・協働して管理運営に取り組む国立公園と記されています。以上は、非常に重要な項目として、賛同できます。 しかし、既に述べたように、原生的な自然の広がりに特徴がある本公園において、保護と利用のバランスを科学的に検討する必要があります。そのため、知床世界自然遺		科学者を関係者に含むことを排してはおりません。事務局によるヒアリングの実施、協議会へのアドバイザーとしての招へいなどにより、必要に応じて意見を聞くものとします。

		産における科学委員会的な研究者組織を設置し、多くの国民と道民の方々と連携する体制を重視すべきと考えます。上記のそれぞれの(3)にそのことが明記されることが肝心と考えます。		
31	参照文献	参照文献に、行政委託の各種報告書が多く見られますが、基礎とすべき研究論文、特に最近の文献があまりないようです。「地質に関する総合的な文献」では、日本地質学会(編集)「日本地方地質誌 1 北海道地方」(朝倉書店)など最近の総合的な文献を参照されることを望みます。また、動植物の文献に関しては、ビジョンに挙げられた項目ごとに多数の文献が引用されており、それらの文献に目を通されていないためにビジョン案に間違いが生じたと考えます。このことは、日高山脈の自然に関して保護と利用を考える上で基礎となる参考文献の引用が不十分であること、そして自然科学研究者の参加がビジョン案作成段階でも必要なことを示しております。		御意見を踏まえて、参考文献の精査を行い、必要に応じて修正を行うとともに、今後ビジョンに基づき具体的な取組を検討していくにあたり、参考とさせていただきます。

（参考）日高（日高地方）の年ごとの値（気温・降水量・湿度・積雪量等）

https://www.data.jma.go.jp/stats/etrn/view/annually_a.php?prec_no=22&block_no=1202&year=2015&month=&day=&view=p1

日高山脈襟裳十勝国立公園協議会の当面の進め方について（令和7（2025）年6月23日版）

資料２

実施項目	令和６年度				令和７年度												令和８年度以降
	8	・・・	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
●会議開催																	
協議会総会	8/27				書面				8/5								年1回程度開催（第1四半期頃）
幹事会			2/19				6/23										年3~4回程度開催
登山道部会							6/23										適宜開催
その他部会																	必要に応じて設置、開催
●議題																	
ビジョン	幹事会において、ビジョン（案）を作成→協議会において承認 【幹事会の進め方】 R6第１回　骨子案への各機関意見のとりまとめ。完成形のイメージを共有。 R6第２回　各機関の意見を反映した「素案」を提示。さらに議論。 R6第３回　「2.19案」を提示。 ＜5.21~6.15　パブリックコメント＞ R7第１回　「案」を提示。 ＜調整＞ 総会付議版の確定。																所定の手続きを経て、公園計画の基本方針に反映させる。
管理運営方針										幹事会において、管理運営方針（案）を作成し、協議会で承認いただく（R8総会めど）。 所定の手続きを経て、公園計画の基本方針に反映させる。							
行動計画・ 地域ルール										幹事会において、必要に応じて行動計画（案）や地域ルール（案）を作成し、協議会で承認いただく。 所定の手続きを経て、国立公園管理運営計画に反映させる。							
自然体験活動計画										環境省が作成する自然体験活動計画（案）について、幹事会で報告する。 所定の手続きを経て、公園計画に反映させる。							
登山道部会						総会で決定された普及啓発事項について、各構成員から周知。						夏山シーズンの状況について各構成員が把握した情報を共有。 部会を開催し、対応が必要な事項について協議。					
その他部会							必要に応じて、部会を設置し、個別課題について議論。										

（用語の定義）

ビジョン	国立公園の風景型式及び公園の利用の現況並びにそれらの特性を踏まえ、公園の風致景観を保護するとともに、その特性に対応した適正な利用が行われるよう、中長期的な視点に立ち、公園の望ましい姿（公園の保護すべき資源、利用の方向性等）、公園が提供すべきサービス（役割、機能）、公園の価値や保全・利用の目標をわかりやすく示したもの。
管理運営方針	ビジョンの実現に向け公園を管理運営していくに当たっての方向性を示したものであり、「保護に関する事項」と「利用に関する事項」に分けて記載する。 「保護に関する事項」として、当該公園の主要な保護対象及びそれらの保護管理の方針、特別地域（特別保護地区並びに第１種、第２種及び第３種特別地域）、海域公園地区及び利用調整地区等の指定方針等について記載する。 また、「利用に関する事項」として、主たる利用形態、公園区域内外にわたる利用動線の現況と今後の方針、主要な利用拠点又は利用施設の配置及び整備の方針、特定の地域における利用規制に関する方針等を記載する。
行動計画	ビジョン、管理運営方針等に基づき、自然環境の保全、利用施設の整備及び取組内容及び役割分担について整理したもの。
地域ルール	国立公園の全部又は一部の地域において、自然環境や利用状況を踏まえて定める地域特有の自然環境保全及び適正利用の推進のための自主的なルールや遵守事項。
自然体験活動計画	公園の風致景観及び自然環境、利用状況等の公園ごとの特性を踏まえ、質の高い自然体験活動の促進に関して、当該公園において自然体験活動を促進する上で踏まえるべき自然資源の特性、当該公園における質の高い自然体験活動の促進に関する基本的な方針等を定めるもの。

報告資料１

日高山脈襟裳十勝国立公園協議会規約

（名称）
第１条　本会は、日高山脈襟裳十勝国立公園協議会と称する。

（目的）
第２条　本会は、日高山脈襟裳十勝国立公園の保全と利用の目標を示した国立公園ビジョンを策定するとともに、その実現を目指して、構成員が連携した取組を推進することにより、本公園の優れた自然環境の保全と適正な利用を推進することを目的として設置する。

（協議事項）
第３条　本会は、前条の目的を達成するため、次の事項を協議する
（１）日高山脈襟裳十勝国立公園ビジョンに関する事項
（２）日高山脈襟裳十勝国立公園ビジョンの実現に向けた管理運営方針及び行動計画に関する事項
（３）前号の行動計画に基づく取組の実施に関する事項
（４）その他、前条の目的の達成のために必要な事項

（構成）
第４条　本会は、別添１に掲げる機関、団体等により構成する。

（会長）
第５条　会長は、北海道地方環境事務所長が務める。

（総会）
第６条　総会は、年１回開催するほか、会長の招集により必要に応じて開催する。
２　総会の議長は、会長が務める。
３　総会は、第３条の事項について協議する。

（幹事会）
第７条　本会に、幹事会を設置する。
２　幹事会は、必要に応じて事務局が招集する。
３　幹事会の構成員は、別添２による。
４　幹事会は、総会の議事に関する予備的協議、その他連絡調整を行う。
５　幹事会は、必要に応じ別添３のアドバイザーを招聘し意見を聴くことができる。

（部会）
第８条　本会に、部会を設けることができる。
　２　部会の設置及び運営に必要な事項は、総会において決定する。
　３　部会は、必要に応じ別添３のアドバイザーを招聘し意見を聴くことができる。

（事務局）
第９条　本会の事務局を、北海道地方環境事務所国立公園課に置く。
　２　事務局は、会の庶務を行う。

附則　この規約は、令和６年８月 27 日から施行する。

報告資料１

別添１

機関・団体等	構成員
学識経験者	中村　太士（北海道大学名誉教授）
	愛甲　哲也（北海道大学教授）
国	日高北部森林管理署長
	日高南部森林管理署長
	十勝西部森林管理署長
	北海道開発局開発監理部開発連携推進課長
	北海道運輸局観光部長
	北海道地方環境事務所長
北海道	環境生活部長
	日高振興局長
	十勝総合振興局長
市町村	帯広市長
	日高町長
	平取町長
	新冠町長
	浦河町長
	様似町長
	えりも町長
	新ひだか町長
	清水町長
	芽室町長
	中札内村長
	大樹町長
	広尾町長
登山関係団体	十勝山岳連盟会長
	日高山岳連盟会長
自然保護団体	アポイ岳ファンクラブ会長
	十勝自然保護協会　共同代表
観光関係団体	十勝観光連盟会長
	日高管内観光連盟会長

報告資料１

別添２

機関・団体等	幹事会構成員
有識者	中村　太士（北海道大学名誉教授）
	愛甲　哲也（北海道大学教授）
国	日高北部森林管理署長
	日高南部森林管理署総括事務管理官
	十勝西部森林管理署総括事務管理官
	北海道開発局開発監理部開発連携推進課開発企画官
	帯広運輸支局　首席運輸企画専門官(企画輸送・監査担当)
	室蘭運輸支局　首席運輸企画専門官（総務企画担当）
	北海道地方環境事務所国立公園課長
北海道	環境生活部自然環境局自然環境課自然公園担当課長
	日高振興局環境生活課長
	十勝総合振興局環境生活課長
市町村	帯広市都市環境部環境室環境課長
	日高町日高総合支所地域経済課長
	平取町観光商工課長
	新冠町企画課長
	浦河町商工観光課長
	様似町商工観光課長
	えりも町産業振興課長
	新ひだか町総務部まちづくり推進課長
	清水町農林課長
	芽室町環境土木課長
	中札内村産業課長
	大樹町住民課長
	広尾町水産商工観光課長
登山関係団体	十勝山岳連盟会長
	日高山岳連盟会長
自然保護団体	アポイ岳ファンクラブ会長
	十勝自然保護協会事務局長
観光関係団体	十勝観光連盟事務局長
	日高管内観光連盟事務局長

報告資料１

別添３

（アドバイザー）

学識経験者
アイヌ文化関係団体
登山関係団体又は山岳ガイド事業者
遭難対策関係団体
自然保護関係団体
観光関係団体又は観光事業者
交通事業者
経済関係団体
金融関係団体
その他、協議会が認める者

報告資料２

令和6年度の各構成員の取組について【報告】

総会報告に向けて、各構成員において、以下の記入例を参考に取組をご記入いただき、【7月15日（火）まで】に事務局宛提出ください。とりまとめて総会資料に加えます。

分類	構成員名	件名	概要
人材育成 普及啓発	北海道地方環境事務所	「子どもパークレンジャー2025」国立公園レンジャーと冬の森を調査しよう！	小学生とその保護者を対象に、スノーシューを用いた現地調査体験を実施（日高町）
普及啓発	北海道地方環境事務所	小学生向け講演	小学生に日高山脈襟裳十勝国立公園の特徴や自然の保護と利用について紹介（大樹町）
プロモーション	北海道地方環境事務所	国立公園めぐりデジタルスタンプラリー	全国の国立公園を対象としたデジタルスタンプラリーに日高山脈襟裳十勝国立公園コースを追加
施設整備	北海道地方環境事務所	標識の設置（日勝峠）	国立公園の境界線付近（国道274号線沿い日高町内及び清水町内）に入口標識を設置

令和7年度の各構成員の取組報告・予定（調査票）

総会報告に向けて、各構成員において、以下の記入例を参考に取組をご記入いただき、【7月15日（火）まで】に事務局宛提出ください。とりまとめて総会資料に加えます。

分野	構成員名	件名	概要
普及啓発	日高山脈襟裳十勝国立公園協議会（事務局：北海道地方環境事務所国立公園課）	夏山登山の5つの心得	日高山脈登山をされる際に最低限守っていただきたいものとして「5つの心得」を提示
プロモーション	北海道地方環境事務所	北海道国立公園アドベンチャーパスポート	北海道にある7国立公園の概要等をシンプルにまとめたパスポート形式のパンフレットを製作
施設整備	北海道地方環境事務所	国立公園 VR の配置	日高山脈襟裳十勝国立公園等を紹介する VR を自治体協力の下で配置
人材育成・普及啓発	北海道地方環境事務所	子どもパークレンジャー	小学生を対象に日高山脈襟裳十勝国立公園を会場として、自然体験活動を実施予定

報告資料４　各構成員からの情報提供資料

（１）登山道に通じる国有林林道の通行状況ほか
（日高北部・南部・十勝西部森林管理署）
（２）十勝西部森林管理署管内の主要山岳及び林道状況（十勝西部森林管理署）
（３）日高山脈襟裳十勝国立公園指定１周年記念シンポジウム（日高振興局）
（４）第 52 回ひだか樹魂まつりチラシ（日高町）
（５）令和７年度日高山脈襟裳十勝国立公園に係る中札内村の取組（中札内村）

日高山脈襟裳十勝国立公園協議会：提出資料

令和７年６月２３日

林野庁北海道森林管理局
日高北部森林管理署
日高南部森林管理署
十勝西部森林管理署

国民の森林・国有林

登山道に通じる国有林林道の通行状況

山岳名	標高m	森林管理署	林道名	市町名	林道の管理者	令和７年度の林道開放期間	関連山岳名	備考
幌尻岳	2,052	日高北部	糠平、幌尻	平取町	平取町/日高北部署	（バス運行期間）7月1日～9月30日 ※ゲートは非開放	戸蔦別岳	問合せ先 平取町役場観光商工課 電話：01457-3-7703
			チロロ	日高町	日高北部署	6月14日～9月30日	ﾇｶﾋﾞﾗ岳・北ﾄｯﾀﾍﾞｯ岳	
		日高南部	新冠	新冠町	新冠町/日高南部署	6月下旬～9月30日	イドンナップ岳	
チロロ岳	1,880	日高北部	パンケヌシ	日高町	日高北部署	6月28日～8月31日		
神威岳	1,600	日高南部	元浦川	浦河町	日高南部署	通行止め（道道被害により通行止）	ペテガリ岳	
芽室岳	1,754	十勝西部	上羽帯、オマベツ	清水町	十勝西部署	常時開放		
久山岳	1,411	十勝西部	旭山	清水町	十勝西部署	林道被災により閉鎖		
伏美岳	1,792	十勝西部	トムラウシ沢	芽室町	十勝西部署	林道被災により閉鎖		復旧工事による落石の危険があるため、徒歩での通行も不可
戸蔦別岳	1,959	十勝西部	トムラウシ沢	芽室町	十勝西部署	林道被災により閉鎖		
ｴｻｵﾏﾝﾄｯﾀﾍﾞｯ岳	1,902	十勝西部	戸蔦別川、ｴｻｵﾏﾝ戸蔦別	帯広市	十勝西部署	常時開放（ヒュッテから5.7km地点で通行止め）		
十勝幌尻岳	1,846	十勝西部	戸蔦別川、ｵﾋﾟﾘﾈｯﾌﾟ	帯広市	十勝西部署	常時開放		
ペテガリ岳	1,736	十勝西部	歴舟川支流	大樹町	十勝西部署	常時開放（ただしゲートから1.5km先林道崩壊のため通行止め）		
楽古岳	1,471	十勝西部	札楽古	広尾町	十勝西部署	林道被災により閉鎖		

登山者の皆様へ

（令和7年度情報）

現在、十勝西部森林管理署管内のトムラウシ沢林道は、工事のため徒歩も含めて通行止めです。当署管内から伏美岳まで縦走した場合に、同林道を通行して芽室町に下山することはできません。

林野庁北海道森林管理局
日高北部森林管理署

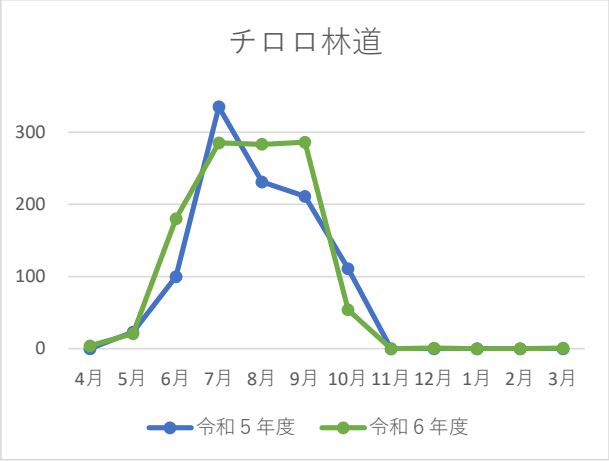
令和7年3月31日現在

日高北部森林管理署管内の入林者名簿記載者数

令和5年度と令和6年度（国立公園指定）の比較

林道・月別入林者名簿記載者数（チロロ林道終点） ヌカビラ岳～北戸蔦別岳～幌尻岳登山口

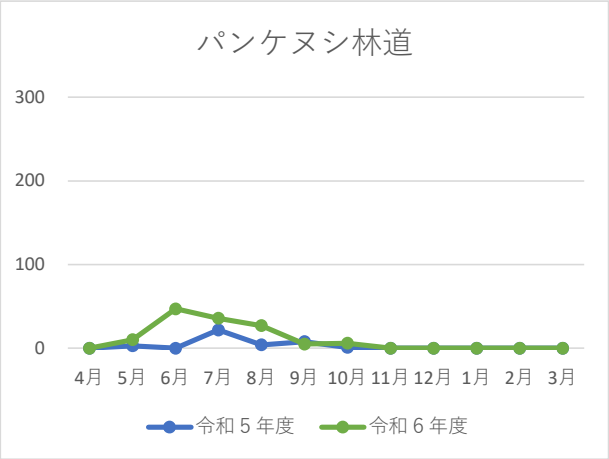
	令和5年度	令和6年度
4月	0	4
5月	23	21
6月	100	180
7月	335	285
8月	231	283
9月	211	286
10月	111	54
11月	0	0
12月	0	1
1月	0	0
2月	0	0
3月	0	1
合計	1,011	1,115



林道・月別入林者名簿記載者数（パンケヌシ林道） チロロ岳登山口

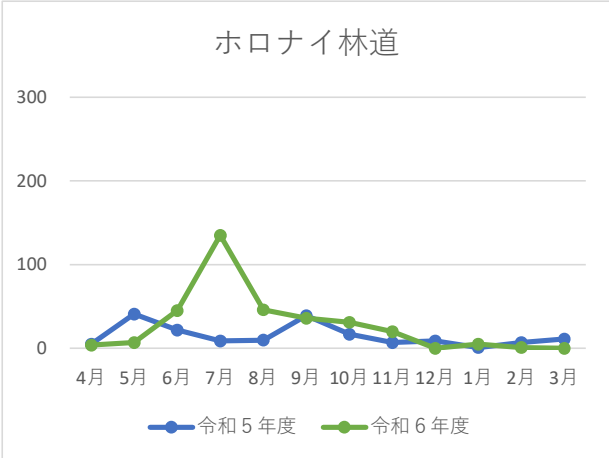
	令和5年度	令和6年度
4月	0	0
5月	3	10
6月	0	47
7月	22	36
8月	4	27
9月	8	5
10月	1	6
11月	0	0
12月	0	0
1月	0	0
2月	0	0
3月	0	0
合計	38	131

（パンケヌシ林道については、令和5年度は通行止め）



林道・月別入林者名簿記載者数（ホロナイ林道） 日高自然の森自然観察教育林入口

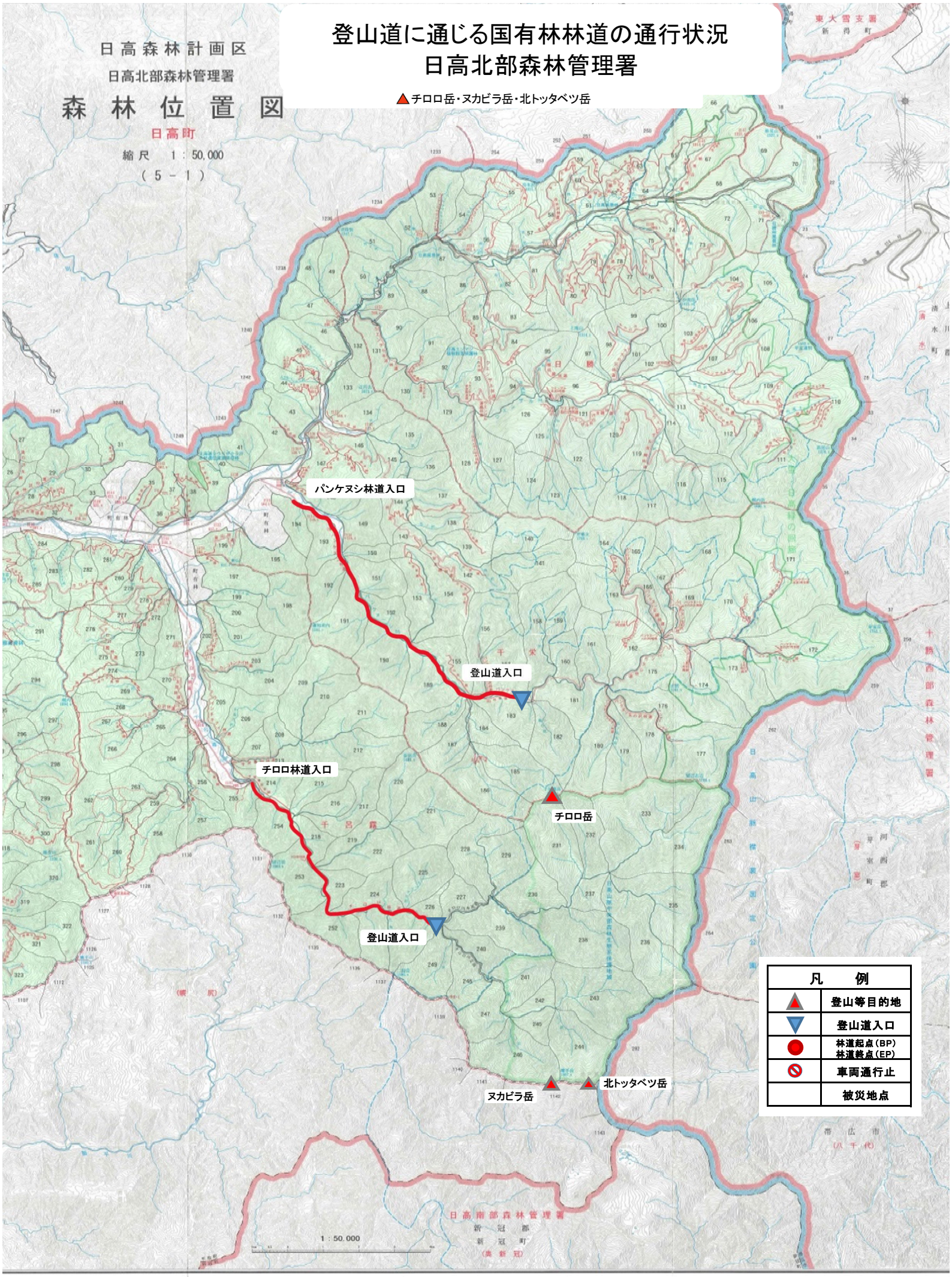
	令和5年度	令和6年度
4月	5	4
5月	41	7
6月	22	45
7月	9	135
8月	10	46
9月	39	36
10月	17	31
11月	7	20
12月	9	0
1月	1	5
2月	7	1
3月	11	0
合計	150	330



資料作成：日高北部森林管理署

登山道に通じる国有林林道の通行状況
日高北部森林管理署

▲チロロ岳・ヌカビラ岳・北トッタベツ岳



令和７年度の取組状況（４～６月）

日高北部森林管理署

保護林の案内板の設置

５月15日（木）、日高山脈森林生態系保護地域内の「幌尻（ポロシリ）原生林」に案内版を設置。同地は、国立公園第２種特別地域内。この林分は過去の施業履歴がなく、日高山脈における山地帯上部の原生的な森林（トドマツ、エゾマツが優占）の姿を今日に伝えている貴重な存在。

日高自然の森自然観察教育林の現地確認

５月27日（火）、日高自然の森自然観察教育林の視察等確認を、日高町、同町教育委員会、国立日高青少年自然の家と合同で実施。

鵡川・沙流川河岸浸食等調査

６月６日（金）日高北部森林管理署では、室蘭開発建設部鵡川沙流川河川事務所が実施する河岸浸食等調査のために飛行する北海道開発局の災害対策ヘリコプター「ほっかい」に同乗し、上空から国立公園区域を含む管内国有林野を点検・確認

報告資料４（２）

十勝西部森林管理署管内の主要山岳及び林道状況

R7.6.11現在

市町村名	山岳名	関連山岳	林道	林道状況	林道ゲート	R6入山者数	R7入山者数
清水町	剣山 (1,205m)		－	－	－	1,589	324
清水町	ペケレベツ岳 (1,531m)		－	－	－	208	13
清水町	芽室岳 (1,753m)		オマベツ林道	異常なし 通行可	開放中	50	94
清水町	久山岳 (1,411m)		旭山林道 旭山第一支線林道	林道決壊のため2.6㎞のうち0.7㎞地点で通行不可	閉鎖中	回収不能につき不明	回収不能につき不明
芽室町	伏美岳 (1,792m)	ピパイロ岳 北戸蔦別岳	トムラウシ沢林道	工事中のため7.6㎞のうち0.5㎞地点で通行不可	閉鎖中	同上	同上
帯広市	ｴｻｵﾏﾝﾄｯﾀﾍﾞｯ岳 (1,902m)		戸蔦別林道 ｴｻｵﾏﾝ戸蔦別林道	林道決壊のため17.5㎞のうち13.9㎞地点で通行不可	開放中	同上	同上
帯広市	十勝幌尻岳 (1,846m)		オピリネップ林道	異常なし 通行可	開放中	310	56
中札内村	ｺｲｶｸｼｭｻﾂﾅｲ岳 (1,721m)	ヤオロマップ岳 １８３９峰	－	－	－	46	6
大樹町	ペテガリ岳 (1,736m)		歴舟川支流林道	林道決壊のため11.4㎞のうち1.5㎞地点で通行不可	閉鎖中	回収不能につき不明	回収不能につき不明
広尾町	楽古岳 (1,471m)		札楽古林道	林道決壊のため4.5㎞のうち1.8㎞地点で通行不可	閉鎖中	同上	同上

報告資料４（３）

日高山脈襟裳十勝国立公園

Hidakasanmyaku-Erimo-Tokachi
National Park

指定1周年記念シンポジウム
未来へつなぐ

記念講演　探検家・作家　角幡　唯介

近著　「地図なき山：日高山脈49日漂泊行」

オープニング　うらら朗読会による著作朗読　蛭川 みどり

パネルディスカッション

「未来へつなぐために　～　この１年で見えてきたもの」

パネリスト（五十音順）

中札内園地指定管理者　株式会社AOILO 代表取締役	梶山　智大
環境省北海道地方環境事務所 新ひだか自然保護官事務所 自然保護官	草留　大岳
自然考房 Nature Designing 代表	鈴木　宏紀
一般社団法人浦河観光協会 事務局長	中川　貢

総合司会　新ひだか町移住コンシェルジュ　市川　福子

2025. 7. 12（土）15:00-17:00（開場14:00）

浦河町総合文化会館地下ミニシアター

同時開催　浦河高校写真部パネル展・十勝から見た日高山脈コーナー

申込先　北海道日高振興局　0146-26-7991 または専用フォームから

共催　北海道日高振興局・北海道十勝総合振興局

後援（予定）　環境省、日高町村会、管内各町、十勝・日高山脈観光連携協議会
日高山脈襟裳十勝国立公園・十勝環境保全委員会

第52回 ひだか樹魂まつり

札幌で活躍する“SAPPOROリアルビート”と有線お問い合わせランキングで１位になった実力派シンガーの坂本つとむをゲストに迎え、熱いサウンドをお届けします！

沙流川花火大会 2,500発!!

20:00～20:30

2025.7.19 土

11：40～20：30

会場:日高国際スキー場駐車場（沙流川温泉ひだか高原荘隣接）

うまいものコーナーの一部は11：30スタート！

木こりさん競争・流送レース出場者募集中！

6月30日（月）締切

司会は、FMノースウェーブ・AIR-G'などに出演中。
漫才協会にも所属している
「やすと横澤さん」

【お問い合わせ先】
実行委員会事務局　TEL01457-6-2008

第52回　ひだか樹魂まつりプログラム

2025/7.19 土

プログラム	時　刻	内　　容
オープニング	11:40 ～ 12:00	司会者「やすと横澤さん」による開催宣言
【ステージ】 伝統舞踊	12:00 ～ 12:30	日高伝統舞踊保存会によるひだか樹魂まつりでお馴染みの日高観光音頭の演舞です。日本舞踊花柳会とのコラボで日高観光音頭の輪踊りも実施。ぜひ、会場で一緒に踊りましょう♪
【ステージ】 木こりさん競争	13:00 ～ 13:30	小中学生のお子様対象。ノコギリで丸太を切るタイムを競います。60秒でタイムオーバーです。
流送レース・予選	13:50 ～ 14:50	チームで協力して丸太を切って運ぶタイムを競う競技です。男子及び男女混合は２人、女子は3人１チームです。賞金１０万円の栄光は誰の手に！
【ステージ】 バンド演奏	15:00 ～ 15:20	日高町出身のシンガーソングライター「AYAMi」によるステージ。懐かしさを感じるメロディに乗せ、心温まるメッセージを伝えていきます。
【ステージ】 南米民族音楽	15:30 ～ 16:00	「Wayra Japan」によるフォルクローレ。ラテンミュージックの演奏でアンデスの風を日高へお届けします。
流送レース・決勝	16:20 ～ 16:50	予選でタイムの速かった上位２組による決勝戦。白熱の戦いは必見です！
【ステージ】 バンド演奏	17:00 ～ 17:40	札幌で活躍する“SAPPOROリアルビート”と有線お問い合わせランキングで１位になった実力派シンガーの坂本つとむをゲストに迎え、熱いサウンドをお届けします。
【ステージ】 フラダンス	18:00 ～ 18:30	日高地区で活動するフラダンスサークル「ひだかフラサークルレイアロハ」が妖艶に現代フラを踊ります。今年は札幌マーヘアラニのフラシスターも参戦します。
【ステージ】 蛍太鼓	18:40 ～ 19:10	門別地区の伝統芸能「蛍太鼓」による演奏です。代表曲の蛍太鼓は清流に生を落とした幼虫が、やがて成虫となり夏の夜空を乱舞する蛍を表現した曲です。
【ステージ】 木遣りと山岳太鼓	19:30 ～ 19:55	日高山岳太鼓保存会による迫力ある和太鼓演奏に乗せ、日高町を支えた林業の歴史、日高地区の伝統芸能である「木遣り」を大型スクリーンでの映像でご紹介します。
沙流川花火大会	20:00 ～ 20:30	夏の夜空を豪快に熱くする花火大会。仕掛やスターマイン、小型花火など総数２,５００発。今年は大迫力の７号玉も打ち上がるので、ぜひお楽しみ下さい。
工作・創作等 体験コーナー	14:00 ～ 17:00	工作や創作、防災等の体験コーナーを開設します。夏休みの思い出にぜひチャレンジして下さい！
車両展示コーナー	12:00 ～ 17:00	陸上自衛隊車両、消防車両、警察車両の展示ブース。自衛隊の指揮通信車などの車両や消防緊急車両、白バイなどを見学できます。
ゲームコーナー	12:00 ～ 17:00	お子様が楽しめるゲームと賞品をご用意しています。参加無料♪賞品もあります（数量限定）　賞品が無くなり次第終了します。
うまいものコーナー	11:30 ～ 20:30	日高産の農畜産物加工品、キッチンカーによる物販など食べ物が盛り沢山！　昔懐かしい縁日もあるよ♪　※物販は時間前でも準備が出来次第開始します。

ひだか樹魂まつり　Photos

日高山脈襟裳十勝国立公園に係る中札内村の取組（令和７年度）

令和6年6月に国内35か所目の日高山脈襟裳十勝国立公園が誕生し、今年6月で1年を迎えることから今年度は国立公園の周知を含め各種事業を展開する。

日高山脈に係る安全な登山・環境保全の取組

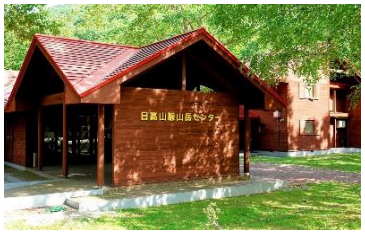
（１）日高山脈山岳センターに「日高山脈専門員」を配置

中部日高山脈登山口にある日高山脈山岳センターに登山知識・登山経験のある「日高山脈専門員」を２名配置し、中部日高山脈の山岳情報の発信・提供を行う。

（２）安全登山・環境保全の啓発活動の実施

8月11日の「山の日」に合わせ、札内川ヒュッテ付近（カムイエクウチカウシ山・コイカクシュサツナイ岳登山口）において、登山者に対して「携帯トイレ」の携行（配布）を呼び掛け、登山者に対して日高山脈の自然環境に配慮してもらう取組を行う。（日高山脈魅力発信サポーターズ）

※帯広警察署と連携し、安全登山に係る啓発活動も一緒に行えないか検討・協議中



日高山脈の魅力を発信する取組

（１）日高山脈の魅力を発信する村民組織の設立と取組

これまで国立公園化に向けたPR活動を行ってきた「国立公園化PR事業実行委員会」に代わる新たな村民組織「日高山脈魅力発信サポーターズ」（事務局：中札内村観光協会）を設立し、日高山脈の魅力を村内外の方に発信する活動に取り組む。

①国立公園化1周年記念「村民登山会」の実施（6月）
②国立公園化1周年記念「山の日・野外音楽祭」の開催（8月）
③小学生を対象としたアウトドア・キャンプ事業の実施（9月）
※環境省、新ひだか町及び北海道大学山岳部との連携

（２）日高山脈の魅力を発信し、誘客・観光PRにつなげる取組み

各団体・企業等と連携し、日高山脈襟裳十勝国立公園の知名度UP、誘客の取組を進める。

①JALと連携した「羽田空港」でのプロモーション事業
②モンベルフレンドフェアでのPR活動
※十勝日高山脈観光連携協議会と連携
③道央圏からの「日高山脈ビュースポットツアー」の実施
④十勝中札内グルメライド（サイクリングイベント）の開催

令和８年度に向けた取組・検討事項

札内川園地にある「日高山脈山岳センター」は平成3年4月に開館し、日高山脈の地質（成り立ち）、動植物等の標本展示、日高山脈における山岳事故の歴史を展示しているほか、展示室中央部には、中部日高山脈地形模型（25,000分の1）を設置し、中部日高山脈の自然とその歴史を解りやすく展示しているが、展示物の老朽化も見られることから、国立公園となった今後も更に多くの方に「日高山脈の自然、魅力、登山史」を伝えていけるよう令和7年度に展示物の見直しを検討（展示改修案作成）する。